



鹿児島大学工学部同窓会

会報 **南桜風**

平成25年3月15日発行 **第12号**



「南桜風」同窓会ホームページへの掲載のお知らせと 会報郵送不要者の調査のお願い

工学部同窓会では会報「南桜風」を発行し、大学の近況や学科の様子、各部会の活動状況、新卒者の進路先などを紹介しております。

会報8号より工学部同窓会のホームページに掲載し多くの会員の皆様にご覧いただけるようにしました。鹿児島大学工学部を開き関連リンクをクリックし、同窓会ホームページにアクセスしご覧ください。

現在会報は会員の方で住所が分かっている全ての方に無償で配布しております。しかし、会報発行には相当の経費がかかることから経費削減方法を検討した結果、皆様の希望をとり、郵送不要とお申し出された方に次号より郵送しないことにしました。下記の書式でメールをお送りください。

◇メールで送る場合の内容

会報の郵送不要： 氏名 卒年 学科

◇同窓会事務局のアドレス

E-MAIL：dousoukai@eng.kagoshima-u.ac.jp

また、メールで送れない方は下記、電話・FAXによりお知らせ下さい。

ただし、今回メール・電話・FAXで連絡をされた方であっても、数年後に郵送の再開を希望される場合には、ご連絡いただきますと会報を送付いたします。

なお、異動等による住所変更等も同窓会ホームページの中の「同窓会名簿の訂正・追記」か、電話・FAXでご連絡下さい。

会報は3年で2回発行されます。

Contents

ごあいさつ

同窓会長	今村 彬	… 2
工学部長	住吉 文夫	… 3
OBより	長曾我部 誠	… 4

各学科・専攻の近況

機械工学科	……………	5
電気電子工学科	……………	5
建築学科	……………	6
環境化学プロセス工学科	……………	7
海洋土木工学科	……………	7
情報生体システム工学科	……………	8
化学生命工学科	……………	9

在学生から

在学生	上別府 由佳	…… 10
博士前期	林 健太郎	…… 11
博士後期	松尾 康弘	…… 12
留学生	ブイキャン ハオ	…… 13

工学部体育祭	……………	14
--------	-------	----

叙勲・受賞	……………	15
-------	-------	----

教員の異動	……………	16
-------	-------	----

部会だより

機友会	……………	17
錦水会	……………	21
AOI会	……………	28
南窓舎密会	……………	31
しらなみ会	……………	35

稲盛賞・学部長賞他	……………	39
-----------	-------	----

進路状況	……………	42
------	-------	----

工学部同窓会役員・ 部会各支部役員名簿	……………	45
------------------------	-------	----

本部だより	……………	47
-------	-------	----

工学部同窓会学生諸活動 助成金の募集について	……………	55
---------------------------	-------	----

編集後記	……………	58
------	-------	----

広告掲載	……………	59
------	-------	----





いあてん

今村 彬

鹿児島大学工学部同窓会長
鹿児島大学連合同窓会関東支部会長

鹿児島大学工学部同窓会員の皆様には、お元気でご活躍のことと、お察し申し上げます。

昨年は世界の人々から祝福を受けた京大中山伸弥教授による古今東西の人間が求めるiPS細胞研究開発で不老長寿に必要な細胞の再生、他に幅広く活用できると思われる最先端技術の究極の開発があり明るい出来事でした。

次に世界経済の先行き不透明な年のなか経済の減速を背景に日本を含め、近隣諸国の指導者が大きく入れ変わり新たな幕開けとなりました、与野党の政権交代が頻繁になるなか安定政権を維持出来るかは、小選挙区選挙での政権与党は公約実行を確実に果たす覚悟を痛感している処だと思います。

経済政策により即効性の有る金融緩和、物価上昇率2%の上昇効果で円安株高設備投資が進み国内生産の空洞化に歯止が掛かれば雇用に期待が出て来ます。

中央自動車道・笹子トンネルで大きな災害が起きた造られた物は経年劣化により破損します、改修・保守の資料を生かし新しい製品開発と新しい素材開発により長期使用可能な設計施工・使用する部品の開発製造と同時に耐用年数の見極めも重要な課題になると思います。

今回の選挙で大きなテーマの一つに原発問題が有りましたが進化した現在の生活を維持する為に化石エネルギーのみでは、産油国内の紛争等で供給不安と価格の上昇や資源の枯渇が叫ばれるなか国家事業として自国での代替エネルギー開発が必要に迫られています、火山列島の上に位置する日本では地熱発電、海に面した所は波動発電、風力発電、太陽光発電等で積極的に各地域での生活エネルギーの調達が出来様な公共事業を計画して雇用を増やしエネルギーに関する公共事業の計画と過疎地開発の未整備の道路他の公共工事と平行して行えば安定した地方の雇用化が進むのではないかと考えられます。工学部の果たす役割が期待されます。

今年も各地で支部単位と同窓会が開催されると思いますが新入会員の歓迎とお互いに旧交を温め異業種交流で地域発展に寄与して下さい。

関東地区は鹿大工学部全科合同同窓会の年です25/11/16(土)東京目黒の三州倶楽部03-3447-6776で・南窓舎密会・三宅支部長、が世話役代表です。

鹿児島大学関東連合会24/7/28吉田学長安部副学長をお招きし懇談会開催

24/4/27魚水会総会(出席) 24/6/2大分支部総会(出席)

24/10/13関東あらた会(出席) 24/10/27機友会総会(出席)

24/11/17錦水会総会(出席) 24/11/22魚水会懇談会(出席)

24/11/17東海錦水会(重複の為欠席) 25/1/19関東法文学部総会(出席)

最後になりましたが、各地域の同窓会の、ご発展と会員、皆様のご健康を、ご祈念申し上げます。

工学部同窓会の会員の皆様、如何お過ごしでしょうか。

平成24年も終わろうとする11月になって突然に衆議院が解散しました。皆様が本稿をお読みになる頃は、新しい政権が発足し社会にいくらか明るい希望の光が差していることを期待したいものです。

私は現在工学部長の職を拝命しておりますので、工学部同窓会の規則上は「顧問」ですが、昭和49年電気工学科卒の正会員でもあります。就任時に恩師の先生方から、「顧問に教え子の正会員になるのは初めてなので、我々もとても嬉しい。」とのお言葉をいただき、只々感激したことを思い出します。それからいろいろありましたが、あっという間に2年間の任期を終えようとしています。本稿では、工学部キャンパスの最近の状況について御紹介し、一瞬でも皆様の思いを母校に引き寄せてみようと思います。

ちょっと前になりますが、平成22年度には、旧化学工学科棟の改修工事が行われました。改修工事では、基礎や骨組み等を除く全てに手を入れましたので、工期は半年位と短いものの、ほとんど新築のビルのようにになりました。このビルは、現在、環境化学プロセス工学科の教育と研究の拠点として使われております。平成24年度は、それとは道路を挟んで丁度西側にあるビル、機械工学科1号棟の改修工事が行われています。本稿を書いている今がまさかりです。建築後43年を経過した電気電子工学科棟と40年経過した建築学科棟についても、次の改修工事の順番がくるのを待っているところです。

一方、年明けの平成25年春までには、唐湊電停の近くにずっと以前からあった、ブロック塀を1メートル位切り開いただけの通用門を広げ、りっぱな大学西門を作ることになっています（車は通れません）。同時期までに、機械工学科1号棟の北隣、岩崎與八郎氏の胸像のある緑地付近にある機械工学科第1実験棟の解体を終えますと、大学西門から幅広の緑地に沿って、工学部を突っ切り郡元キャンパスの中心へと進むことができるようになります。JT跡地に市立病院と交通局が引っ越してきますので（最近工事が始まりました）、この電車通りは往来が増えると見込まれていますので、今後はこの西門が大学の玄関としての役割を果たすようになるかも知れません。また、工学部前電停の交差点の周辺でひときわ目立つ稲盛会館を、市民の皆さんにより近くからご覧いただくとの考えから、付近の歩道と大学との境界ブロックを壊して、新たな境界を会館側へ少し近づいた位置に移しました。工学部キャンパスとその周辺は、昔の野暮ったい面影は消え、洗練されたエリアに変わりつつあります。



工学部キャンパスの今

住吉 文夫
鹿児島大学工学部長



長曾我部 誠

株式会社 竹中工務店
大阪本店 副本店長

同窓会の皆様におかれましてはさまざまな分野でご活躍と存じます。

私は 1983 年に工学部建築学科を 1985 年に大学院工学研究科修士課程建築学専攻構造コースを終了いたしました。当時は、立川正夫教授、徳広育夫教授、三谷勲教授、皆川洋一教授と構造・構造力学の先生方にご指導を受け、大変お世話になりました。

その後、株式会社竹中工務店に入社し、主に生産現場の最先端で建物の建設に携わってまいりました。その間、アフリカのケニアでの海外作業所経験、技術研究所での地盤工学に関する研究、技術部での大規模プロジェクトでの生産工事計画など多岐にわたる生産関連業務を経験してきました。その中でも大阪の阪神西梅田再開発事業には約 7 年間携わり、事業の企画段階から生産工事計画に取り組み、大規模・大深度・超高層・区画整理に伴う既存地下施設計画・鉄道近接施工等、当時としては類を見ない難工事を無事竣工させることができましたことは、私にとりまして大きな自信につながりました。その後、作業所長を拝命しましたが、当社には「棟梁精神」に基づいた作業所長には深い思い入れがあり、作業所長を拝命することは、大きな目標であると同時に大きな責任を負うことであり、非常にやりがいを感じる場所です。その後いくつかの建物を作業所長として竣工させ、現職に就いています。現職は受注支援としての生産工事計画、また作業所への技術的施工計画支援、技術開発等々、生産現場で発生するすべての事象に対応する部門として、日々緊張した毎日です。

現在建設業界を取り巻く環境は近年大きく変化してきております。景気の先行きが不透明な中、建設市場は縮小の一途をたどっており、生き残りをかけた熾烈な競争が続いています。そのような環境の中、当社は「最良の作品の創造によって社会に貢献すること」を使命として、どのように環境が変化しようともこの精神は変えることなく、作品づくりを通して社会やお客様に貢献することとしています。そしてお客様に提供するソリューションの質で選ばれる企業を目指して活動を行っています。総合評価制度やコンペ入札制度が多くなる中、「最良の作品」作るためのシステムとして当社は、「設計施工一貫システム」をビジネスモデルとし、企画・設計から施工・維持にいたるまで、シームレスな連携により、すべてに責任を負いお客様の「想いをかたちに」つくりあげて信頼にこたえることとしています。

現在当社は、本学大学院桜ヶ丘病棟の工事を受命いただき、本年の竣工に向かって工事を行っています。昨年 10 月に建築学科在学学生を対象に講演をさせていただきました。微力ながら後輩のためにできることがあれば継続して取り組みたいと思います。

最後に AOI 会をはじめ本学工学部出身の方々益々ご活躍されることを祈念いたします。

機械工学科

学科長 駒崎 慎一

機械工学科の近況について報告させていただきます。教員の構成ですが、平成25年3月現在、生産工学コースが8名（教授3名、准教授3名、助教2名）、エネルギー工学コースが8名（教授3名、准教授3名、助教2名）、機械システム工学コースが10名（教授4名、准教授4名、助教2名）の計26名体制となっています。平成24年3月には、機械工学科のために長年ご尽力いただきました皮籠石紀雄教授と小山隆行講師が定年退職されました。また、平成25年3月には有富正男教授が定年退職される予定です。一方、平成24年4月には西村悠樹准教授が山口大学より、同年10月には池田徹教授が京都大学より、松崎健一郎教授が九州大学より、洪定杓准教授が東京理科大学より着任され、先進的研究分野を開拓されている教員が新たに4名加わり大変充実した教育研究体制となりました。

環境の面でも平成24年度は大きな節目となりそうです。47年間という長い間教育研究の場として活躍してきた機械工学科1号棟および機械工学科第1実験棟の改修工事が行われました。講義室や製図室、実験室が一新されるとともに共用スペースもでき、機能的で綺麗な建物に生まれ変わりました。また、キャンパス内に新しい通りを造るため機械工学科第2実験棟が取壊しとなりましたが、代わりに新実験棟が機械工学科第1実験棟の隣にできました。新たな通りは機械工学科1号棟と機械工学科2号棟の間にでき、花壇やベンチも整備され桜も植えられるとのこと。一般の方々も往来できるため、是非一度お越しいただき新しい機械工学科周辺をご散策ください。

教員構成や教育研究環境はこのように大きく変わりますが、機械工学科がさらに発展し今後も社会に貢献し続けていくには、同窓会会員の皆様方のお力添えが不可欠であります。引き続き変わらぬご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

電気電子工学科

学科長 宮島 廣美

電気電子工学専攻の最近の人事についてご報告します。

平成22年3月に高田等教授と山下喜市教授が退職されました。23年3月には土井俊哉准教授が転出、同4月には福島誠治教授、西川健二郎教授と五十嵐保隆助教が、同10月には、中原啓貴助教が着任されました。また、24年3月には飯盛憲一准教授が退職され、同4月には、川越明史助教が准教授に昇任されました。25年1月には寺井慶和准教授が着任され、同4月にはエネルギーコースに助教が着任予定です。現在のスタッフの陣容につきましては、学科のホームページをご覧ください。表紙もリニューアルしています。学科も世代交代を迎え

ており、活気のある若い先生方が専攻の発展をになってくれるものと期待しております。

電気電子工学科は、平成 17 年度に教育プログラムに関する JABEE 認定を受けました。また、平成 22 年度には継続審査を受け、27 年度まで認定は有効であります。その後をどうするかについては、社会の動きを見ながら学科として判断するということになりますが、その節には卒業生の方々にもアンケート調査などをお願いすることとなると思いますので、よろしく申し上げます。

学内外ともに、厳しい時代ではありますが、卒業生の皆様のご活躍を期待します。

建築学科

学科長 塩屋 晋一

今年度は学科の教授陣は学科の教員人事に明け暮れた状況でありました。次のように学科の教員に欠員が生じて、各教員の授業担当増加、学務負担の増加で、助教をはじめ多くの先生方の協力で、一杯一杯で今年を何とか乗り越える状況でした。今年度は、学科内の多くの先生が研究に力を注ぐことができなかつたと思われます。

教員の動向は、平成 24 年 3 月に松村教授が退職され、山本助教が東海大学に転出されました。平成 24 年 4 月に木方先生（建築意匠・歴史）が教授に昇任されました。また、平成 24 年 7 月に鈴木准教授が京都府立大学に転出されました。本年度 3 月には友清教授が退職されます。友清先生は本学に 28 年間勤務されており、長年、学科と大学の運営に力を尽くしていただきました。

これに伴い、平成 25 年 4 月から建築家の鯉坂教授（現三菱地所設計設計部長）と柴田准教授（現小山高専准教授、元清家清設計事務所勤務）が赴任されます。また、本学の境野助教が平成 25 年 2 月に准教授（建築計画）に昇任されています。この他、構造系と計画系の助教が公募中で平成 25 年 7 月頃着任予定です。計画系の助教も、建築設計の設計能力が高く、将来、建築家として活躍して頂く方を公募しています。

本学科は 7 年ほど前までは基本的には教授 6 名、准教授 6、助手 6 名体制でしたが、現在は教授 5 名、准教授 5、助手 4 名になっています。構造系の教授 1 名、准教授 1 名、助手 2 名を削減した形になっています。公務員削減の国家方針によるものであります。今後の建築学科のあり方を考え、学科が発展していくためにはどのような教員の布陣が望ましいか、を議論した結果であります。

教員の定員が限られている状況では、選択と集中で、比較的、純粋な建築学科を選択した形になります。今年の 4 月以降の教員の構成を以下に示しています。建築設計・建築計画を中心にした布陣になります。学科の教授の年齢も 45～57 才で、完全に若返ります。全教員、活発な方々です。この体制は今後 10 年間、続くと思われます。昭和 20 年に建築学科が開設されて以来、最も充実した教員団を構成できたと思っています。

来年度からは新たな体制で学生の教育を行い、物事の本質をとらえ直向きに前に進む学生を育成できるよう、学科として努力して参ります。

卒業生の皆様には、今後も変らぬご支援をお願いいたします。

建築設計系 鯨坂教授（建築家）、柴田准教授（建築家）、助教（建築家、公募中）

建築計画系 木方教授（建築意匠・建築史）、境野准教授（建築計画）、
小山助教（都市計画）

建築環境系 二宮教授（建築環境）、曾我准教授（建築環境）、長澤助教（建築設備）

建築構造系 本間教授（大空間構造、構造最適化）、澤田准教授（鉄骨構造、建築振動）
塩屋教授（鉄筋コンクリート構造、木質構造）、黒川准教授（建築材料施工）
助教（建築構造、公募中） 詳細は学科ホームページをご覧ください。

環境化学プロセス工学科

学科長 筒井 俊雄

改組により平成 21 年度に設立された環境化学プロセス工学科は、平成 25 年 3 月に初めての学部卒業生を送り出します。学科の学生定員は 35 名であり、環境化学プロセス研究グループ（旧単位操作、輸送現象）、環境バイオテクノロジー・先端複合材料プロセッシング研究グループ（旧工業物理化学）、環境反応工学研究グループ（旧反応工学）、機能性セラミックス材料研究グループ（旧無機材料化学）の 4 研究グループ体制で教育・研究を進めています。

化学工学の学問体系を基本とし、少人数の講義による教育や演習、卒業研究を通じて、環境との調和を考慮した化学プロセスや材料の開発とデザインができるエンジニアや研究者の育成に力を入れています。さらに、南九州の地域産業や全国の企業とも連携した研究活動を通じて、持続可能な社会の実現のために貢献していく所存であります。

卒業生の皆様には、是非お立ち寄りになって学科の現状を見ていただくとともに、これまで同様にご支援賜りますようよろしくお願いいたします。

海洋土木工学科

学科長 浅野 敏之

海洋土木工学科の 1 年を振り返りまずご報告すべきことは、昭和 55 年のご着任以来、構造工学・耐震工学など多くの講義を教授され、多数の人材を育成された河野健二教授が平成 24 年 3 月末日をもってご退職されたことです。5 月 19 日に河野先生の退職記念祝賀会を開催しましたが、多数の卒業生・関係者が集まり先生の永年のご指導・ご尽力に感謝を表しました。

平成 24 年 4 月 1 日には、立命館大学グローバルイノベーション研究機構から酒匂一成先生が助教として赴任されました。酒匂先生は海洋土木工学科の卒業生で博士前期・後期課程の修了生でもあります。地盤工学会奨励賞を受賞されるなど専門分野でも高い評価を受けている気鋭の研究者で、本学科でのさらなる飛躍を期待しております。また、8 月 1 日には山口明伸先生が教授に昇任されました。1970 年生まれという工学部の中でも最若手の教授で、ご専門のコンクリート工学での研究のさらなるご活躍や、本学科の教育や運営面でのリーダーシップに大いに期待をしているところです。また、平成 25 年 2 月 1 日には齋田倫範先生が准教授に昇任されました。平成 22 年 4 月の着任以来、研究・教育のご貢献はもとより、学科のホームページの整備などにご尽力を頂いておりました。昇任後は、教育や運営の比重も大きくなっていくことと思いますが、山口先生、酒匂先生とともに若い力で将来の海洋土木工学科を担ってほしいと願っております。

さて一昨年の東日本大震災以来、被災地では国・地方自治体・建設会社・コンサルタント・電力・鉄道などで働く土木技術者が、文字通り寝食を忘れて復興再建のために全力を捧げています。海洋土木工学科の卒業生も数多く東北地方の現場で働いているとの報告を聞きます。本年度、海洋土木工学科に大型の津波造波装置が平面波動水槽内に新設されました。この 1 年、津波防災はもとより、河川災害・土砂災害などのシンポジウムも開催しました。本学科は、海洋土木工学技術者に対する社会からの大きな要請を自覚し、これからも教育と研究に精励し、有為な技術者と有用な研究成果を世の中に発信していく所存です。

情報生体システム工学科

学科長 渡邊 睦

H 21 年度の工学部改組に伴い、これまでの情報工学科と生体工学科・生体電子コースを統合し、新しく『情報生体システム工学科』を立ち上げました。学部学生定員 80 名、博士前期課程の学生定員 42 名と、工学部で機械工学科に次ぐ 2 番目、理工学研究科で 3 番目の規模の学科・専攻です。

情報処理とネットワークを主とする**情報システム工学**、知の理解と応用を主とする**脳認知工学**、ヒトの状態計測を主とする**生体計測工学**の 3 つの教育研究組織を有し、博士前期課程は、高次プログラミング、先端的ネットワーク、量子コンピュータ、高度医療機器などの次世代情報処理・システム関連を主な研究領域とする**情報システム工学コース**と、高次認知機能の解明、生体計測技術及び生体信号解析技術の創成、複雑系科学の解明、3D・動画像認識・呈示、知能移動ロボットなどの脳型コンピュータ関連を主な研究領域とする**認知生体システム工学コース**の 2 つのコースワークを設置し、新しい脳型情報処理の創出を目指して教育研究に取り組んでいます。JABEE（日本技術者教育認定機構）プログラムを 2013（H 25）年度に受審すべく、吉田秀樹教授を中心に準備を本格的に開始しています。

来年4月卒業の4年生86名、博士前期課程2年生46名の進路も、ほぼ全員確定しています。これまで教授8名、准教授9名、助教6名の体制でしたが、来年度から新たに教授1名を増員しました。また工学部唯一の女性教員として生体工学科の卒業生を助教に任用しました。予算削減など非常に厳しい状況ですが、スケールメリットを最大限活用し、一同力を合わせて乗り切る所存です。情報生体システム工学科・専攻のホームページ (<http://www.ibe.kagoshima-u.ac.jp/index.html>) から随時、最新情報の発信を行なっておりますので、是非ご覧ください。

同窓会の皆様の更なるご支援をよろしくお願い致します。

化学生命工学科

学科長 大木 章

鹿児島大学工学部は平成21年4月に改組され、応用化学工学科の半分の「応用化学コース」と生体工学科の半分の「生体機能材料工学コース」が合体し、新学科「化学生命工学科」が誕生いたしました。教員としては、上記2学科以外にナノ構造先端工学専攻の教員も加わっており、「化学」をキーワードとし、有機化学、物理化学、生化学、環境化学、バイオテクノロジーなどを専門とする教員によって、教育と研究を行っております。現在の教員構成は、物質環境化学コースの教授として板原、大木、肥後、准教授として、上田、高梨、下茂、吉留、助教として中島、満塩の計9名、生体化学コースの教授として門川、杉村、隅田、准教授は、金子、橋本、助教は橋口、山元、若尾の計8名です。新学科発足以来、3～4倍の入試倍率（前期日程）を保っており、優秀な学生達が毎年入学しています。本年3月には、「化学生命工学科」としての初めての学生が卒業する予定です。新学科発足以来ほぼ4年が経過したわけであり、学科として完全にまとまってきました。

教育システムの充実ならびに保証のため、平成18年度に旧応用化学工学科の「応用化学コース」が、JABEE（日本技術者教育認定機構）によって、教育プログラムが認定されておりましたが、昨年度に行われた継続審査では、「化学生命工学科」への継続を含めて、6年間の認定がなされました。本年度も、この教育水準を維持すべく教員一同努力しております。研究に関しても、上記専門の教員がそれぞれの分野の第一線で活躍しており、科研費や委託研究費などの外部資金の獲得においても、当学科は工学部において常時トップレベルの実績を示しています。また、当学科教員が中心となり、5月には第72回分析化学討論会（肥後、参加者800名）を、11月には第49回ペプチド討論会（杉村、参加者500名）を鹿児島で開催するなど、活発な学会活動を行っております。

現在の日本は、一昨年の東日本大震災の影響がまだ尾を引いており、また世界経済低迷の影響をもろに受けており、大変困難な時代となっております。本学科では、このような時代に対応できる優秀で活力のある学生を送り出すべく、教員一同鋭意努力いたしておりますので、諸先輩の皆様の絶え間ないご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



在學生から

「目に見えていること、 その裏にあること」

電気電子工学科 4年
上別府 由佳

スイッチを ON にすると、電気をつきます。スイッチを OFF にすると、電気が消えます。このように当たり前に思い込んでいることにも、実は仕組みがあります。しかし、それを意識していない人が、大勢いると思います。考える必要のないほど、世の中は便利な仕組みに満ち溢れているのです。

そのことをもっと多くの人に気付いてほしいと思います。例えば、夏の暑い日に使うエアコン。どのようにして部屋を涼しくしてくれるのでしょうか。それは、熱を運ぶ冷媒という物質がコンプレッサで圧縮され、室外機の熱交換機で熱を放出し、室内では膨張して冷えて、熱を吸収することにより、私たちに快適な室温を提供しているのです。この一連の流れを知ったとき、電気回路の配線につながるように、自分の頭の中に衝撃が走りました。それまでの狭い視野が、スッと広がるように感じたのを今でも鮮明に覚えています。暑いと思ったらスイッチ一つで涼しくなると思っていたそれまでの私は、表面上だけの薄っぺらな世界しか見ていなかったのです。このとき、ものごとの仕組みを知る喜びを体全体で感じた気がしました。

このようにものごとに仕組みがあることを意識し始めたのは、大学3年生の後期です。それまでは電気電子工学科の学生でありながら、生活における電気製品の仕組みについても深く考えたことはありませんでした。大学では、高校の頃から苦手だった数学や物理、電気分野の基礎のやり直しに一生懸命で、その勉強が私たちの生活にどう活かされているのかまでは考えていませんでした。4年生になって、卒業研究が始まり、自分自身で学んで解明していかなければならない状況が増え、これまで学んできた基礎が身近なものごとの仕組みにつながっていることがわかって、今、とても楽しい毎日を過ごしています。

これからもさらに深く勉強して、何気なく生活している中の、たくさんの仕組みを理解していきたいと思います。そして何より、そんなたくさんの仕組みがあることを、もっと多くの人に伝えていきたいと思います。



在学生から

「研究室で得たもの」

化学生命・化学工学専攻 博士前期課程1年
林 健太郎

学部3年の後期から研究室に配属され、約2年が経ちました。この2年間を振り返ってみると、アルバイトや講義からは学べなかった多くのことを学ぶことができ、非常に有意義な時間を過ごすことができた実感しています。

私が所属する環境工学研究室では、微量有害物質の環境汚染防止およびクリーンエネルギーの利用の観点から研究を行っており、現在私は、「水産食品中の微量元素の分析と加工や再資源化による化学形態変化」という研究テーマのもと実験を行なっています。大学院に進学すると学部生向けの学生実験や学会に参加する機会も増え、これらを通じて「相手の知識や期待に合わせて話す能力」が身につきました。例えば学生実験では、私の研究の専門や背景を詳しく知らない相手に対し身近な例を使ってわかりやすく説明するように心掛け、専門家が集う学会では成果を数値や他の研究との差別化を示して興味をひくなど、相手の理解や興味を得るために異なったアプローチが必要となります。

また、研究室で学んだ最大のことは「物事に対する取り組み方」です。大事なことは、「何を研究するか（研究内容）」ではなくて、「どう研究するか（研究の仕方）」です。大学教育の中で身につけるべきことは、知識やスキルそのものというより、より効果的に知識・スキルを身につけるための思考・行動性だと思います。そうして身についた思考・行動性は間違いなく、将来の糧になると確信しています。研究室で得た「知識」が社会で直接役に立つ場面は少ないと思いますが、物事の考え方や、壁にぶつかった時の対処の仕方そして精神的な粘り強さなど、研究に真剣に取り組むことで得たものが社会人になった時に役立つと考えています。



在学生から

「言語聴覚士と 理工学研究科」

理工学研究科博士後期課程
情報生体システム工学専攻

松尾 康弘

私は言語聴覚士です。みなさん、言語聴覚士という職業をご存知でしょうか？

言語聴覚士とは、何らかの原因でコミュニケーションに問題が生じた方々へ、専門的技術を用いて、検査や訓練・支援および助言等を行う国家資格を有した者です。対象は多岐に渡り、脳卒中後に生じる失語症や高次脳機能障害、構音障害。さらに、小児分野では学習障害や広汎性発達障害などが対象となります。よって言語聴覚士が従事する場所は、主に病院（リハビリテーション）や福祉施設および小学校となっております。

言語聴覚士が主として扱うコミュニケーションとは、一体何なのでしょう。コミュニケーションの表現として、声・文字・ジェスチャー・雰囲気など様々です。例えば声に問題がある方の検査はどのように行なっているかという点、基本的には聴覚心理的な印象で検査を行っています。声の質を「粗糙性」「無力性」「努力性」「気息性」に分け、それぞれ言語聴覚士自身の耳で5段階評価を行います。感覚で数値化してしまうということは、そこには必ずズレが生じてしまいます。もちろん言語聴覚士はこのズレをなくすために日々トレーニングを行っていますが、様々な影響により検査者内・間でズレが生じてしまうことを、多くの研究者たちより指摘されています。

私が、理工学系で学び・研究したいと思ったきっかけは、このズレを少しでも無くし、言語聴覚士が扱う検査を「感覚」に頼り過ぎず、物理的に捉え、かつ簡便に出来たらという想いでした。入学後、講義では私にとって馴染みの薄い数式・公式がスライドで映写され、さらに生体に関する様々な所見を、数式で捉えるということは、私自身驚きの連続でした。

現在はいくつかの理工学系の学会に参加させて頂き、少しずつではありますが、心も体も慣れてきたように感じます。今後は、言語聴覚障害学の発展を理工学系の立場より支えていきたいと考えております。



留学生から

「人と人との架け橋、 私が造る」

海洋土木工学科 2年

ブイ キャン ハオ

私がベトナムに住んでいたころ、日本に対して、頑固な侍のいる国、あるいは戦争好きな国、第二次世界大戦争の悔しい失敗を糧に経済や産業を発展させてきた国という印象を持っていました。

高校卒業後、ベトナムの大学に進学することになりましたが、その時は、夢はもちろん、目標も持っていませんでした。私は、夢は持たなくてもいいと思いますが、少なくとも目標は持っていた方がいいと思います。

大学に入学する前に、日本に長く留学し、働いたことのある博士に出会ったことをきっかけに、私は日本に留学することを目標としました。博士には困難な留學生活だと言われましたが、運命を変えたいと思い、日本への留学を決意しました。2009年10月3日、5人の友達とともに日本での留學生活が始まりました。

言葉の壁を感じたり、経済的に困難であったりしましたが、そんな厳しい時期を乗り越えて、現在、鹿児島大学の海洋土木工学科に所属しています。ここは私の将来の目標達成を果たすために、羽を付けてくれる所です。私の国は、まだ途上国であり、発展させるためのインフラが不十分な状況にあります。また、海洋の軍事が弱い今のベトナムは他国の脅威から国民を守ることが著しく大変です。これらの理由で、私は海洋土木を選びました。私は海洋を徹底的に利用し、経済発展に貢献するため、海洋構造工学を専攻したいと思っています。それは私の国を守るために必要なことだと思います。

しかし、元々、自然環境が好きだった私は人工構造物にはあまり関心がありませんでした。今は、人々が快適に暮らすためには、ある程度の開発が必要であることが分かってきたので、環境に優しい構造物を造ることを目指せばいいのではないかと思い始めてきました。また、この間、ホームステイプログラミングに参加し、屋久島での自然、民衆の生活に触れることを経験しました。その時、各集落の人々の笑顔・愛情・穏やかな生活を見て、自分の進むべき道を悟りました。それは、将来、人々の笑顔があふれる生活を支えつつ、環境に溶け込んだ構造物を築くことです。その笑顔は人と人との架け橋となると思います。それが私の目標です。人と人との架け橋、私が造ります。幻想な目標ではないよね。

工学部体育祭

平成24年11月24日実施

工学部体育祭としてバスケットボールを行いました。約20チームが集まり一つの競技を通してより一層仲間達やその他のチームとの交流ができ、結束を深めることができました。

(電気電子 池田 拓真)



叙勲・受賞 ～おめでとうございます～

受賞 (受賞年月順)

- ◆ 情報処理学会 2012年度 山下記念研究賞 (平成24年3月7日)
受賞者：小野 智司 (情報生体システム工学専攻 准教授)
- ◆ Certificate of Merit for The 2012 IAENG International Conference on Computer Science
(平成24年5月9日)
受賞者：宮島 廣美 (電気電子工学専攻 教授)
- ◆ Best Paper Award of The 2012 IAENG International Conference on Communication Systems and Applications (平成24年5月9日)
受賞者：重井 徳貴 (電気電子工学専攻 准教授)
- ◆ 電子情報通信学会 コンピュータシステム研究会 優秀若手講演賞 (平成24年8月3日)
受賞者：中原 啓貴 (電気電子工学専攻 助教)
- ◆ 日本学術振興会 平成23年度特別研究員等審査会委員表彰 (平成24年8月9日)
受賞者：渡邊 睦 (情報生体システム工学専攻 教授)
- ◆ Young Researcher Award 2012, Journal of Advanced Computational Intelligence and Intelligent Informatics (平成24年8月22日)
受賞者：小野 智司 (情報生体システム工学専攻 准教授)
- ◆ 情報処理学会 数理モデル化と問題解決研究会 プレゼンテーション賞
(平成24年8月24日)
受賞者：小野 智司 (情報生体システム工学専攻 准教授)
- ◆ 情報処理学会 システムLSI設計技術研究会 優秀論文賞 (平成24年8月30日)
受賞者：中原 啓貴 (電気電子工学専攻 助教)
- ◆ 第11回情報科学技術フォーラム 船井ベストペーパー賞 (平成24年9月5日)
受賞者：中原 啓貴 (電気電子工学専攻 助教)
- ◆ 日本心理学会 優秀論文賞 (平成24年9月10日)
受賞者：木原 健 (情報生体システム工学専攻 助教)
- ◆ デザインガイア2012 デザインガイア最優秀ポスター発表賞 (平成24年11月27日)
受賞者：中原 啓貴 (電気電子工学専攻 助教)

教員の異動

<昇任>

機械	木下 英二	教授	平成24年 1月 1日付	機械工学科専攻 准教授
建築	木方 十根	教授	平成24年 4月 1日付	建築学専攻 准教授
電気電子	川越 明史	准教授	平成24年 4月 1日付	電気電子工学専攻 助教
海洋土木	山口 明伸	教授	平成24年 8月 1日付	海洋土木工学専攻 准教授
建築	境野健太郎	准教授	平成25年 2月 1日付	建築学専攻 助教
海洋土木	齋田 倫範	准教授	平成25年 2月 1日付	海洋土木工学専攻 助教

<採用>

情報生体	平佐 知典	特任助教	平成24年 4月 1日付	情報生体システム工学専攻 プロジェクト研究員
情報生体	赤木 康宏	特任講師	平成24年 4月 1日付	東京農工大学大学院工学研究院 助教
海洋土木	酒匂 一成	助教	平成24年 4月 1日付	立命館大学立命館グローバル・イノベーション研究機構 特別招聘准教授
機械	西村 悠樹	准教授	平成24年 4月 1日付	山口大学大学院理工学研究科 助教
化学生命	武井 孝行	准教授	平成24年 4月 1日付	九州大学大学院工学研究院 助教
情報生体	Marcos Paulo Berteli Slomp	特任助教	平成24年 5月 1日付	
情報生体	付 星 斗	特任助教	平成24年 7月 1日付	情報生体システム工学専攻 特任研究員
機械	池田 徹	教授	平成24年10月 1日付	京都大学大学院工学研究科 准教授
機械	松崎健一郎	教授	平成24年10月 1日付	九州大学大学院工学研究院 准教授
機械	洪 定 杓	准教授	平成24年10月 1日付	東京理科大学理工学部 嘱託助教
電気電子	寺井 慶和	准教授	平成25年 1月 1日付	大阪大学大学院工学研究科 講師

<転出>

建築	山本 憲司	助教	平成24年 3月31日付	学校法人東海大学工学部 准教授 *平成10年10月 1日から平成24年 3月31日
化学生命	松永 直樹	助教	平成24年 5月31日付	国立大学法人宮崎大学工学教育研究部 准教授 *平成17年11月 1日から平成24年 5月31日
建築	鈴木 健二	准教授	平成24年 6月30日付	京都府立大学大学院生命環境科学研究科環境科学専攻 准教授 *平成15年 4月 1日から平成24年 6月30日

<定年退職>

建築	松村 和雄	教授	平成24年 3月31日限り	昭和47年 1月 1日から平成24年 3月31日
海洋土木	河野 健二	教授	平成24年 3月31日限り	昭和47年 4月 1日から平成24年 3月31日
機械	皮籠石紀雄	教授	平成24年 3月31日限り	昭和52年 4月 1日から平成24年 3月31日
電気電子	飯盛 憲一	准教授	平成24年 3月31日限り	平成 8年 4月 1日から平成24年 3月31日
機械	小山 隆行	講師	平成24年 3月31日限り	昭和47年 3月20日から平成24年 3月31日
化学生命	藤吉 一誠	助教	平成24年 3月31日限り	昭和46年 4月 1日から平成24年 3月31日



機友会

平成24年11月10日（土）本部総会写真 その1

機友会本部の活動状況

平成24年度の機友会本部総会が11月10日（土）温泉ホテル中原別荘にて、内門暉史 関東支部長（S43卒）、明石靖夫 関西支部長（S42卒）、齋藤和幸 中京支部長（S47卒）、菅谷清 福岡支部長（S49卒）の来賓のもと、参加者68名で、井手英夫 庶務幹事（S48卒）の司会進行により開催された。総会では、高崎征忠 会長（S39卒）の挨拶の後、議長選出、経過報告、会計報告、監査報告があり、続いて役員（評議員、幹事）の改選があり、これらが承認された。総会終了後は、特別講演の講師として、鹿児島大学・ポリテク川内 非常勤講師の南竹 力氏（元工学部技術部総括技術長）による「電子技術者からみた機械技術」と題した講演会が開催された。

懇親会は、機友会会長の挨拶の後、乾杯を行い、来賓の駒崎慎一 機械工学専攻長、機友会各支部長のご挨拶、恩師の中島 繁 先生、浜崎和則 先生のご挨拶と続き、テーブル毎に同窓生、大学院生からのスピーチなどを聞きながら杯が酌み交わされた。宴会では、七高寮歌「北辰斜めに」の合唱で大いに氣勢が上がり、吉満正美 氏（S53卒）による万歳三唱で盛況のうちに閉宴した。



南竹 力氏による講演



平成24年11月10日（土）本部総会写真 その2

機友会支部の活動状況

平成24年度機友会各支部の活動を以下のとおり報告する。

「福岡支部」の総会は、9月1日（土）に福岡市内の西鉄イン福岡にて、有富正男 先生(S47卒)の来賓のもと、20名で開催した。総会では議長選出後、役員改選が行われ、会計報告と監査報告が承認された。その他、福岡支部交流会へのお誘い、福岡支部名簿の配布等について連絡がなされた。懇親会は有富先生の乾杯の音頭でスタートし、各自の近況報告、「北辰斜めに」を合唱し、盛況のうちに閉会した。なお、<http://www.ne.jp/asahi/journal/naka-naka/index.html>にて、支部総会を回覧することが可能になっている。

「関西支部」の総会は、例年は7月に大阪にて開催していたが、節電の関係のため、平成24年5月26日（土）にホテル日航プリンセス京都にて、高崎征忠 会長(S39卒)、浜崎和則 先生(S39卒)の来賓のもと、42名で開催した。今回はオプションとして、「京都御所の見学」と「日本伝統工芸の一つである友禅染めの体験」の何れかを選んで参加する企画を実施し、盛況であった。また、講演会では、京セラの窪田明仁氏(S59卒)に「京セラにおける再生可能エネルギーの取り組み」と題した講演をして頂いた。懇親会では、下茂 忍 氏(S34卒)の乾杯に始まり、ご来賓の各先生のご挨拶の後、各テーブルごとの紹介及びスピーチへと続き、最後は応援歌である七高寮歌の「北辰斜めに」を唱和し、東 嘉三 氏(S34卒)による万歳三唱で盛況のうちに閉宴した（来年は6月1日に大阪のハートンホテルにて開催する予定）。

「中京支部」の総会は、平成24年7月13日（金）に愛知県知立市の「ホテルクラウンパレス知立」で開催した。機友会本部から福原 稔 先生(S56年卒)、亀田昭雄 総括技術長の御来賓を仰ぎ、総勢58名で盛会した。司会は幹事会社榊デンソーのもと、米山國弘 氏（S28

年卒)の乾杯に始まり、斎藤和幸 支部長 (S47 年卒) の挨拶につづき大学近況の御報告を御来賓の各先生からいただいた。宴では、各会社組織ごとの近況報告が各人から報告され大いに親睦を深めた。最後は「北辰斜めに」の合唱で大いに氣勢があがり、青木幸久 副支部長 (S49 年卒) による万歳三唱で盛況のうちに閉宴した。

「関東支部」の総会は、平成24年10月27日(土)に三州倶楽部で開催された。29名の参加を得て、来賓として機友会本部から福原 稔 先生(S56年卒)、亀田昭雄 総括技術長、工学部同窓会 今村 彬 会長にご出席いただき、今後の支部活動の活性化を議論し、盛り上がった総会となった。また、関東支部人事案件として、中川正人 支部長(S43卒)の後任に内門 暉史 氏(S43卒)を新支部長に選任した。

同期会として、昭和36年卒の同窓生(代表、宮川卓也 氏)が約10名で同期会を開催し、9月25日(火)に機械工学科の研究室見学を行った。



平成24年9月1日(土)福岡支部総会写真



平成24年5月26日（土）関西支部総会写真



平成24年7月13日（金）中京支部総会写真



平成24年10月27日（土）関東支部総会写真



錦水会

関東支部総会 集合写真

関東支部総会

平成24年11月17日（土）、東京上野の「東天紅 丹頂の間」において開催されました。雨にもかかわらず37名が集まり、特に平成19年から24年卒の若い会友に多数参加いただき意義ある総会となりました。大学からは、電気電子工学科の八野知博先生、情報生体システム工学科の二宮公紀先生にご出席をいただきました。総会は松藤さん（電気昭55）の進行ですすめられ、特に萩原会長から同窓会の目的と事業、支部の設立から現在までの活動経過、工場見学に際しての産学交流の現状、東京リエゾンオフィス（鹿児島大学の東京事務所）を通じた活動などについて説明がありました。懇親会は田原さん（電子昭47）の進行で、会長の挨拶のあと今村顧問の発声で乾杯を行い、にぎやかに始まりました。自己紹介が一巡したところで、本日のイベント「ジャンケン大会」が始まり、大いに盛り上がりました。ジャンケン大会の表彰式のあとは先生方から錦水会に対するお礼と激励のお言葉を頂きました。それに続いて「北辰斜め」の大合唱と古室さん（工専昭26）の挨拶と三々七拍子の締めで会を終えました。（亀澤和雄 電気昭34）

東海支部総会

平成24年11月17日（土）にKKRホテル名古屋で開催されました。開会前から、鹿児島弁を交えての旧友を温める会話の中、会は始まりました。今年も元気でこの場に参集して頂いた方々へのお礼と、混沌とした現世相の状況を交えた支部長の挨拶に続き、西さんによる当東海支部の成り立ちの説明がありました。今回は、新卒の方もお二人いらっしゃいましたので、大変参考になったのではと、思います。大学の近況を、電気電子工学科の堀江雄二先生からお聞きしました。厳しい就職戦線、学生さん達の日常の勉強や今時の考え方等々、我々の時代に比較して、現在はかなりタフな環境であることを再認識させられま

した。名誉会長の宗方さんよりの、83歳の現在も息子さんの仕事を手伝いつつゴルフも楽しんでおられる、その健康の秘訣の貴重な話を聞きながらの乾杯の音頭を皮切りに、おいしいビールをググッと流しこみました。しばらく歓談の後、各人の近況報告が始まりました。今年もはるばる佐賀より出席して頂いた平田さん、商売になる農作業を実践されている毎日とのこと。何気なく口にしてはいる野菜、果物ですが、大変な作業量を要していること、作物を買って頂く農業には、しっかりとした頭脳展開が必要なことも、聞かせて頂きました。富士電機の崎山さんの後輩への温かき指導の話を交えながらの後輩たちとの楽しい会話のやり取り、素晴らしい環境をつくっていらっしゃるなあ、と、感心するところでした。一部、ギター弾き語りの時間もあり、最後に、恒例の「北辰斜めに」「記念祭歌」を合唱し、来年の再会を誓い合い、散会となりました。この東海支部、庶務幹事を引き受けてくれている谷口さんの活動と汗が、このような素晴らしいひと時をつくりあげてくれています。



(東海支部長 永野 博 電子昭46)

関西支部総会

平成23年度は、3月24日に門真市の松心会館にて開催されました。会には、恩師の草部宏成先生、大学からは飯盛憲一先生（電気電子）と木原健先生（情報生体）が参加されました。飯盛先生には学内の近況をお話いただき、木原先生にはご研究についてご講演いただきました。なお、平成24年度の支部総会は3月23日に松心開会にて開催予定です。



学生と錦水会関西支部との懇親会

平成24年9月4日に天津閣（十三）において、工場見学で来阪した電気電子の学生・教員とOBの懇親会が開催されました(右写真)。懇親会には、学部3年生45名、修士1年生20名、引率の小原幸三先生と真中浩貴先生、そして関西支部からの4名のOBが参加しました。



福岡支部総会

平成24年11月24日（土）、天神テルラ スカイルームにおいて、恩師の廣岡繁先生と湯ノ口万友先生をお迎えし、総勢32名の参加で開催されました。今回は、宮崎と長崎から2名の新卒者の参加がありました。総会では、阿南支部長のご挨拶に続き、近況報告、前年度決算報告、今年度予算案、役員改選が審議されました。懇親会では、はじめに湯ノ口先生より大学の近況報告あり、乾杯に引き続き、懇談となりました。最後は、恒例の北辰斜めに続き、万歳三唱の後、閉会の辞をもって、盛会のうちに会はお開きとなりました。



学生と錦水会福岡支部との懇親会

平成24年9月4日に、天神テルラ スカイルームにおいて、工場見学旅行で福岡を訪れた情報生体システム工学科の学生・教員とOBの懇親会が開催されました。懇親会には、学生25名、引率教員の吉田秀樹教授と鹿嶋雅之助教、そして福岡支部からは阿南支部長を含む6名のOBが参加しました。はじめに、支部長挨拶と学生から卒業生への質問があり、懇談となりました。懇談後は、大学代表と卒業生代表の挨拶があり、盛会のうちに会はお開きとなりました。



熊本支部総会

平成24年10月6日（土）、熊本全日空ホテルニュースカイにおいて、情報生体システム工学科の大野裕史先生に出席いただき、総勢10名で開催されました。総会では、引き続き現行体制で臨むこと、H23年度会計報告及び監査報告、H24年支部活動計画及び予算案が承認されました。これまで不確定であった総会開催時期も審議され、来年度から毎年10月第1土曜日に開催することになりました。大野先生からは、大学の近況報告がありました。



今年の総会も参加者が少ない状況であり、今後どのようにして参加者拡大を図っていくのが話題の中心でした。懇親会は、少人数ではありましたが、村上先輩の乾杯によりはじまり、出席者皆さんの近況報告等をいただき、なごやかに愉快なひと時を過ごしました。最後に、全員で「北辰斜めに」を声高らかに歌い、来年も必ず出席することを誓い合い散会となりました。

(熊本支部長 小田博昭 電子昭47)

宮崎支部総会

平成24年10月20日(土)、宮崎市内の「杉の子」において、18名が参加し開催されました。大学からは情報生体システム工学専攻の塗木淳夫先生をお迎えしました。今回、1名の方が初めて参加されましたが、若い参加者を増やすこ



とが課題とのことです。支部長による開会の挨拶のあと、塗木先生より学内の近況報告、TEDxSakurajima等新しい取り組みの紹介等のお話をいただきました。懇親会では、恒例の近況報告が全員からあり、観光文化検定1級合格やブラジル・インドネシア勤務の話など話題が豊富でした。懇親会は、恒例の巻頭言、記念祭歌、北辰斜めにで、盛会のうちお開きとなりました。懇親会の後、恒例の地域振興事業として先生を含め2次会に繰り出しました。多才な方々によるピアノ演奏やカラオケで大いに盛り上がりました。若い卒業生の皆様のご出席お待ちしております。(宮崎支部長 野崎公憲 電気昭48)

鹿児島支部総会

平成24年11月3日(土)、パレスイン鹿児島において、山下義信先生、村島定行先生、廣岡繁先生、棚田嘉博先生、南竹力先生をお迎えし、50名の参加者で開催されました。同日開催の「きばっど会」のお二人の講師と現役学生14名も参加しま



した。また、H24年4月より錦水会に合流した南翔会の元メンバからは、長野諭さん(生体平15)が参加されました。総会は、向田善博さん(電気電子平9)の司会で始まり、葉山支部長のご挨拶、支部活動報告、会計報告、事業計画および予算案が審議され承認されました。懇親会は、新卒の奥千鶴子さん(電気電子平24)の司会のもと、霧島地区からご参加の蔵園裕二さん(電気昭57)の乾杯のご発声で始まりました。途中、現役学生の紹介もあり、盛会のうちに閉会しました。次回、平成25年の鹿児島支部総会は本部総会として開催予定です。

新入生ウェルカムパーティー

8年目となる平成24年度も鹿児島サンロイヤルホテルの昼食バイキングを利用し開催されました。4月17日は電気電子工学科、5月25日は情報生体システム工学科の開催でした。両日とも葉山錦水会会長から、4月17日は吉留進氏（電気昭47年）から講話をいただきました。



電気電子工学科



情報生体システム工学科

学生向け講演会「きばっど会」

第10回目となる今年は、11月3日に、稲盛会館で開催されました。講師に、春日博之氏（電気昭56、キヤノン（株））と岡村直行氏（情報平19、京セラコミュニケーションシステム（株））をお招きし、これから就職活動を開始する学部3年生と院1年生に向けてメッセージやアドバイスをお話しいただきました。



学生の受賞 ※受賞日順、学年は受賞当時

- ・田尻 昌之 (情報生体システム工学専攻1年, 指導教員 小野 智司)
日本感性工学会生命ソフトウェアシンポジウム 「優秀発表賞」, H23年11月27日
- ・大村 龍弘 (電気電子工学専攻1年, 指導教員 山本 吉朗)
電気学会「論文発表賞B賞」, H24年2月
- ・高木 義昭 (電気電子工学専攻2年, 指導教員 重井 徳貴)
日本知能情報ファジィ学会 九州支部「学生優秀講演賞」, H24年3月10日
- ・清水 崇行 (電気電子工学専攻2年, 指導教員 大島 賢一)
電子情報通信学会「学術奨励賞」, H24年3月21日
- ・荒木 健太郎 (電気電子工学専攻1年, 指導教員 重井 徳貴)
電子情報通信学会 九州支部「平成23年度 学生会講演奨励賞」, H24年3月
- ・藤崎 将嵩 (電気電子工学専攻1年, 指導教員 宮島 廣美)
電子情報通信学会 九州支部「平成23年度 学生会講演奨励賞」, H24年3月
- ・木佐貫 恵 (情報生体システム工学専攻1年, 指導教員 小野 智司)
情報処理学会 九州支部 「講演賞」, H24年5月
- ・井戸川 祐樹*, 椎原 康士郎**
(*電気電子工学専攻2年, **電気電子工学科4年, 指導教員 大島 賢一, 中原 啓貴)
電子情報通信学会「HEART 2012 FPGA Design Contest Finalist」, H24年5月30日
- ・藤崎 博貴 (情報生体システム工学専攻2年, 指導教員 大塚 作一, 木原 健)
The Society for Information Display2012 「Student Travel Grant」, H24年6月7日
- ・河合 史博 (電気電子工学専攻1年, 指導教員 宮島 廣美)
日本知能情報ファジィ学会九州支部「学生優秀ポスター賞」, H24年12月8日
- ・満永 一武輝 (電気電子工学専攻1年, 指導教員 宮島 廣美)
日本知能情報ファジィ学会九州支部「学生優秀ポスター賞」, H24年12月8日
- ・福元 和真 (情報生体システム工学科4年, 指導教員 川崎 洋)
第11回ITSシンポジウム2012 「論文賞」, H24年12月13日
- ・唐鎌 寛崇 (電気電子工学専攻1年, 指導教員 山本 吉朗)
電気学会「論文発表賞B賞」, H25年2月

AOI会

AOI会の会員の皆様、ご健勝のこととお慶び申し上げます。AOI会関係の近況をご報告します。

○総会の運営体制の変更

2004年の総会で総会の運営体制を変更することが決定しております。以前は本建築学科の卒業生の教員が世話をしてきておりましたが、2006年度以降では、運営を鹿児島県内の建築設計事務所・建設業に所属されている卒業生会員のグループと、鹿児島県庁や鹿児島市役所の卒業生会員のグループで交互に2年に一回の総会運営を担当してもらうことになりました。

○AOI会の名簿・会誌の廃止について

本会では偶数年度に同窓会誌を合わせた名簿を発行して参りました。しかし、この編集作業も卒業生の教員によりなされてきておりました。卒業生教員が極めて少なく負担が大きくなっていることや、工学部本部の名簿のシステムが2011年度から大きく改善されて、今後、かなりの完成度の高い名簿が編成されていくことを考慮しまして、2010年度のAOI本部総会で廃止することが決定しました。今後は本工学部同窓会誌の頁を利用して、会員に情報を発信していくことになりました。ご了解、宜しく願い申し上げます。

○第8回建築ナビ「先輩と進路・就職を語る会」の開催報告

同会は2002年から開催され、今年度、それぞれにおいて開催されました。

学生にとって極めて有意義なものになったようです。今後も継続して同会を開催できるようにAOI会も支援してゆく計画であります。

日：2011年10月6日（土）

講演：長曾我部 誠 氏（昭和58年卒、竹中工務店本店技術部長）

講演：三堂早紀子 さん（平成19年卒、佐藤総合計画 意匠設計）

○AOI会設計優秀賞の受賞式

武田敏郎会長の発案で新たに2008年に「AOI会設計優秀賞」が創設されました。これは同窓会が在学生の設計活動を励ます主旨のものです。1学年から3年生が対象で、各学年で年間を通して優秀集な設計課題の作品を最も多く提出した学生に送られます。第5回の受賞は以下のとおりです。

2011年度受賞者 1年生：木村 拓、高須八千代 2年生：奥山尚美、畠中悠里
3年生：関 恭太、田中奈津希

○厄払い会

鹿児島本部では毎年、2月に厄払い会を開催しております。AOI会の総会が開催される年は総会の懇親会と合同でやることになっております。都合がつけば是非参加して頂きたいと思っております。

○関西AOI会の総会

2012年9月29日に大阪市で関西支部の支部総会と懇親会が開催されました。参加者は35名(内16名友清研卒)で、元教官の三谷先生と鈴木先生(京都府立大学)また本学の友清先生が出席されております。若い卒業生の参加が少ないようです。最近の卒業生も是非、参加して頂きたいと思っております。

○AOI会北九州支部の総会

2012年12月1日に福岡市でAOI会北九州支部の支部総会と懇親会が開催されました。参加者は53名で、元教官の三島先生、土田先生、黒木(荘)先生、黒木(康)先生また本学の木方先生が出席されております。また毎年、12月初めの土曜日と決まっておりますので、最近の卒業生も是非、参加して頂きたいと思っております。

○各支部の年会と日程

各支部では定期的に年会が開かれております。機会がございましたら各支部の年会に出席して同窓生間の交流を深めていただきたいと思います。

鹿児島本部	次回の本部総会	2014年2月	(庶務幹事・塩屋, 末尾を参照)
	厄払い会	毎年2月	(連絡先:塩屋まで)
大分支部	工学部同窓会として開催(毎年)	連絡先:0977-25-1221	(和田支部長)
北九州支部	毎年12月の第1土曜日	連絡先:092-871-8450	(守 支部長)
関西支部	毎年9月ごろ	連絡先:075-922-0086	(小林支部長)
関東支部	工学部同窓会として開催	連絡先:03-3263-6554	(楊 支部長)

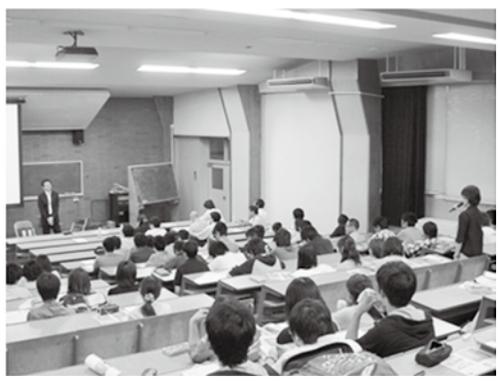
○訃報

徳広育夫名誉教授が平成23年8月3日に鹿児島市内の病院でご逝去されました。先生の最後の構造設計の作品は九州国立博物館でした。退職後は、耐震偽装事件のホテルの耐震補強設計や、鹿児島県、宮崎県、沖縄県の既存建物の耐震診断・耐震補強設計などの指導にご尽力されておられました。葬儀に武田会長が参列されて、同窓会としても弔電・生花をお供えして、ご冥福をお祈りしました。

○AOI会の名称の由来

卒業してから「あ、おい、飲もうかい」の「あ」、「おい」の「お」と「い」、および「飲もうかい」の「かい(会)」をとって「あおい会(AOI会)」になったとのことです。

文責 庶務幹事 塩屋晋一(昭和57年卒業)



建築ナビ2012風景(長曾我部氏の講演)



建築ナビ2012風景(三堂さんの講演)



平成24年度建築学科3年生による建築展



関西AOI会総会(2012年9月29日)



出席された友清教授ご夫妻

南窓舎密会

南窓舎密会は、昨年50周年を迎え卒業生の皆様のご協力の下、記念事業を滞りなく執り行うことができました。平成25年3月には、新学科である環境化学プロセス工学科、化学生命工学科の第1期生が卒業いたします。今後とも会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。

平成24年度の部会便りとして、10月20日に開催されました、第20回南窓舎密会総会に関する報告を致します。



第20回南窓舎密会 平成24年10月20日 於：ホテル満州

南窓舎密会総会は、例年5月の第2土曜日に開催されておりましたが、本年より10月に開催されることになりました。第20回総会は、平成24年10月20日（土）に、鹿児島市内のホテル満秀で開催されました。来賓として染川賢一会長、鎌田薩男先生、田中安彦先生、高橋武重先生、前田滋先生にご出席していただきました。また、東海支部長 種子田實郎様、北部九州支部長 黒田真也様にもご出席していただきました。総会及び懇親会の出席者は総計39名でした。

総会に先立ちまして、鹿児島大学稲盛会館にて、環境化学プロセス工学科、化学生命工学科、南窓舎密会の主催により、化学工学科、応用化学科の卒業生2名の会員の方をお招

きしまして、「先輩の話を聞いてみよう」講演会を開催いたしました。本講演会は、大学を出て10年以上経過した先輩がどのような仕事をしているのか、どのような学生を企業は望んでいるのか等々、本音の話を聞き、「先輩の話を聞いて就職活動に勝とう」を合言葉にした講演会で、毎年総会と同日に開催しております。講演1では、「新規事業参入時に行ったこと（ヘルシア事業）」と題しまして、昭和63年大学院化学工学専攻修了、花王株式会社ヒューマンヘルスケア研究センターヘルスケア食品研究所 プロジェクトリーダー 小倉義和氏に講演いただきました。その中で、花王の商品開発の流れの中での「ヘルシア緑茶」を開発し、飲料業界への新規事業参入した時の貴重な経験をお話いただきました。講演2では、「環境対応型塗料用分散体の開発」という演題にて、昭和52年 大学院応用化学専攻修了、大日精化工業株式会社 顔料技術本部 機能材開発室 室長 磯辺聡氏に講演いただきました。大気汚染の原因の一つとして考えられている揮発性有機化合物（VOC）の排出抑制を目指した「ゼロVOC塗料」について、ゼロVOC水性カラーベース（NAFカラー）開発の過程での苦労などを講演いただきました。お二人が長年企業でご経験されたご苦労や成功・失敗談を、現役学生や若い会員の方々も興味を持って聞き入っている様子でした。

第20回南窓舎密会総会・懇親会（平成24年10月20日 ホテル満秀）
出席者一覧（敬称略）

会 長	S39応化	染 川 賢 一	副 会 長	H2化工	安 藤 浩 毅
恩 師		鎌 田 薩 男	恩 師		田 中 安 彦
恩 師		前 田 滋	恩 師		高 橋 武 重
現職教官		肥 後 盛 秀	現職教官		武 井 孝 行
東海支部長	S41応化	種子田 實 郎	北部九州支部長	S41応化	黒 田 眞 也
	S35応化	松 尾 壽 也		S44応化	田 中 博
	S44応化	伊 藤 博 雅		S46応化	下 茂 徹 朗
	S48応化	永 野 三 郎		S50応化	磯 辺 聡
	S52化工	大 竹 孝 明		S60応化	吉 留 俊 史
	S61化工	柏 原 司		S61化工	小 倉 義 和
	H6応化	満 塩 勝		H6応化	中 島 常 憲
	H7応化工	小 幡 透		H8応化工	山 元 和 哉



染川会長の挨拶



南窓舎密会より表彰された鎌田前会長

会場をホテル満秀に移した総会では、本部や各支部より一般報告がなされた後、昨年度より南窓舎密会に合流することになりました、南翔会（旧生体工学科同窓会）会員の正式受け入れについて、その経緯と受け入れ体制が報告されました。また、平成23年度決算報告と50周年記念事業決算報告が行われ、平成24年度予算案についても承認されました。その後、南窓舎密会表彰の規定に基づきまして、昨年度まで、会長を務められました鎌田薩男先生の本会への功績をたたえ、表彰状が贈呈されました。総会後の懇親会では、本会副会長 安藤浩毅氏の開会の辞で宴が始まり、染川会長はじめとする恩師の方々にも近況を語っていただきました。現役学生も多数参加し、同窓生の方々と焼酎を酌み交わしつつ話を弾ませておりました。



懇親会の様子

●学科再編後の新学科における教員配置について

H21年度の学科再編により南窓舎密会の母体となる専攻および学科が、化学生命・化学工学専攻、環境化学プロセス工学科、化学生命工学科となりました。旧来の会員の皆様ならびに旧南翔会から合流された会員の皆様に上記2学科の教員配置（平成25年3月現在）をお知らせいたします。尚、教員は全員 大学院理工学研究科 化学生命・化学工学専攻に所属しております。

工学部 環境化学プロセス工学科

教授 甲斐敬美、筒井俊雄、平田好洋、吉田昌弘

准教授 鮫島宗一郎、武井孝行（H24年4月着任）、中里 勉

助教 水田 敬

工学部 化学生命工学科

教授 板原俊夫、大木 章、門川淳一、杉村和久、隅田泰生、肥後盛秀

准教授 上田岳彦、金子芳郎、下茂徹朗、高梨啓和、橋本雅仁、吉留俊史

助教 中島常憲、橋口周平、満塩 勝、山元和哉、若尾雅広

インターネット上では学科や同窓会に関する最新の情報をご覧いただけます。
各研究室の趣向を凝らしたウェブサイトもぜひご覧下さい。

環境化学プロセス工学科 <http://ecp.cen.kagoshima-u.ac.jp/>

化学生命工学科 <http://cb.apc.kagoshima-u.ac.jp/>

南窓舎密会 <http://jaddo.com/nansouseimikai/>

しらなみ会

「しらなみ会会長あいさつ」

萩 亮（昭和52年卒）

しらなみ会の皆様、お元気でご活躍のことと思います。

昨年12月の政権交代を境に、景気浮揚対策が本格化しつつあり、また、トンネル事故をきっかけに、高度成長期に大量に建設されたインフラストックの老朽化が社会の注目を浴びていることもあり、公共事業、土木事業は、にわかには拡大の様相を呈し始めています。皆様の周辺でも、期待感とともに少し忙しくなるかなという空気が感じられる今日この頃ではないでしょうか。

前回総会以来、はや2年が経過しようとしておりますが、来る4月にはまた、総会開催を予定しているところです。大学法人化とともに、全学、工学部、学科それぞれの同窓会も活発化してきており、大学との関わりへの期待も高まる中、しらなみ会本部におきましても、学科や現役学生に対して、同窓会がどのように関わり、支援・協力することができるか、いろいろと思いを巡らしております。会員諸兄の賛同をいただきつつ、少しずつでも具体の形にして、我々を送り出してくれた海洋土木工学科の発展、躍動に貢献することも、また一つの同窓会の存在意義ではないかと考える次第です。

昨年5月、鹿児島大学名誉教授である間庭愛信先生がご逝去されました。謹んで哀悼の意を表し、改めて、心からのご冥福をお祈りいたします。その際、奥様より、しらなみ会のために役立てていただきたいとのことで5万円の寄付をいただきましたので、ここにご報告します。奥様へは、しらなみ会を代表し、御礼状をお送りさせていただきました。ご寄附いただきました寄附金につきましては、しらなみ会発展のために有効活用させていただきたいと考えております。

この会報が届く頃は、草木も芽吹き始める美しい春の空気に包まれているのではないかと思います。会員の皆様の一層のご活躍とご健康を祈念申し上げます。

「本部活動報告」

しらなみ会本部庶務幹事 木佐貫浄治（平成2年卒）

しらなみ会本部におきましては、平成24年8月24日に「第1回 司（つかさ）会」に萩会長をはじめ幹事8名で参加いたしました。司（つかさ）会は、故岸園司前同窓会会長のご家族の寄付により、開催されました。工学部同窓会の各部会役員の方々々と交流を深めることができました。また、平成25年4月20日（土）に開催予定の総会に向けまして着々と準備が進んでおり、今後のしらなみ会の活動内容につきまして検討しております。

平成25年3月には、しらなみ会名簿録を発刊いたします。しらなみ会会員の皆様の交流を深めるためにご活用いただければと思います。

トピックス

河野健二先生退職記念祝賀会報告

木村 至伸（平成10年卒）

河野健二先生は、平成24年3月末日付をもちまして鹿児島大学をご定年退職されました。先生は、京都大学工学部助手として奉職されました後、昭和55年に講師として鹿児島大学工学部海洋土木開発工学科（現在の海洋土木工学科）にご着任されました。その後、昭和58年には助教授に昇任、平成6年には教授に昇任され、幅広い見識と指導力を持って教育・研究活動に取り組まれてこられました。ご定年を迎えるまで、ご専門とされる構造工学・耐震工学・海洋構造工学に関連して、学部・大学院で構造力学、構造解析学、耐震工学、海洋土木設計学、海洋建設工学実験Ⅱ、構造力学特論等、多くの講義を教授され、幾多の人材を育成されました。



この長年の先生のご功績とご貢献に対して、海洋土木工学科卒業生（主に海洋構造工学講座出身）と大学関係者の方々にご協力をいただき、平成24年5月19日にジェイドガーデンパレスにおいて退職記念事業として特別講演会と記念祝賀会と開催いたしました。記念祝賀会には、各地（遠くは海外出張先から）から卒業生にご参加いただき、74名の参加者で



河野先生と奥様を囲んで、盛大に行われました。

記念事業では、115名の方々から寄せられた退職記念事業醸金から、河野先生にiPadと旅行券を記念品としてお贈りすることができました。この紙面をお借りし、深く感謝申し上げます。

第1回 司（つかさ）会

故岸園司前同窓会会長のご家族の寄付により、「岸園賞」の設立と「司（つかさ）会」の開催が行われることとなり、第1回岸園賞に海洋土木工学専攻の武若耕司教授（昭和52年卒）が選ばれました。受賞者による講演が第1回「司（つかさ）会」（平成24年8月24日、ジェイドガーデンパレス）において、行われました。武若教授は、古代ローマ人の知恵を得て負のイメージが強いシラスを人の役に立つ材料として甦らすため、シラスを用いたコンクリート開発に取り組んで来られたことについて講演されました。講演では、NHKで放送された特集番組の映像を交え、また、ローマ帝国の時代に使用された建築材料（古代コンクリート）の破片を会場に持参され、参加者から多くの注目を集めておられました。今回の受賞に対しまして、心から祝福を申し上げるとともに、益々のご活躍を祈念いたします。

新任挨拶

海洋土木工学専攻 助教 酒匂一成

平成24年4月1日付で、理工学研究科海洋土木工学専攻の助教として着任いたしました酒匂一成と申します。平成8年に鹿児島大学工学部海洋土木工学専攻に入学し、平成13年3月に博士前期課程海洋土木工学専攻を修了、平成16年3月に博士後期課程システム情報工学専攻を修了しました海洋土木出身者です。在学時代は、北村研究室にて地盤防災工学、不飽和土質力学を学んでおり、現在もその研究を続けてきております。

海洋土木を卒業された先輩、後輩方が日本のみならず世界各国でご活躍されている様子を見聞きし、海洋土木工学専攻出身であることを誇りに思います。また、行く先々で卒業生の方々に温かく迎えていただき、心より感謝申し上げます。

海洋土木工学専攻の教員、海洋土木工学専攻に育てていただいた身として、人材育成に力を注ぎ、海洋土木の良き伝統を引き継いでいきたいと思っております。また、私自身もより一層努力し、海洋土木の学生とともに成長してまいりたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

今後の予定（平成24年12月現在）

- ・しらなみ会名簿の発刊（平成24年度末発刊予定）
- ・第16回しらなみ会総会（平成25年4月20日，ジェイドガーデンパレスにて開催予定）

訃報 間庭愛信先生（鹿児島大学名誉教授）

鹿児島大学工学部海洋土木学科名誉教授である間庭愛信先生が，平成24年5月10日（木）にご逝去されました。ご葬儀は5月12日に横浜市内にてしめやかに営まれました。謹んで哀悼の意を表し，心からご冥福をお祈りします。なお，奥様よりしらなみ会のために役立てていただきたいとのことで5万円の寄付をいただきました。心より感謝申し上げます。ご寄附いただきました寄附金につきましては，しらなみ会をより一層発展させるため，有効に活用させていただきます。

鹿児島大学稲盛賞

(平成24年度)

鹿児島大学稲盛賞は、平成15年から次の選考基準により各学部から選ばれた2名の方々に与えられます。但し、(1)の対象者は学部学生（4年生）に限り、(2)(3)の対象者は大学院生を含みます。

- (1) 学業に専念し成績優秀で品行方正な最終学年次学生
- (2) 継続的な活動により社会の期待に応えるような業績を挙げた学生
- (3) その他前2号と同等以上の表彰に値する行為があったと認められた学生

平成24年度

[機械工学科]	田畑 亮
[電気電子工学科]	帖地 宏典

鹿児島大学工学部稲盛学生賞

(平成24年度)

鹿児島大学工学部稲盛学生賞は、昭和44年11月、当時京セラ株式会社社長の稲盛和夫氏の寄付により創設された鹿児島大学工学部稲盛奨学生制度を、平成14年から本制度に改めたものです。この賞は工学部4年次の学生の中から、成績優秀でかつ後輩に対して模範となるような学生生活を送っている方々に与えられます。

平成24年度

[機械工学科]	飯尾 泰士	上野 良輔
[電気電子工学科]	上別府由佳	尾迫 佑樹
[建築学科]	三池もも子	鎌田 彩夢
[環境化学プロセス工学科]	田中 啓寛	白桃 佐典
[海洋土木工学科]	小牧 裕幸	小原 圭祐
[情報生体システム工学科]	堀田 祐樹	集 美輝
[化学生命工学科]	宮地 健人	神田 圭輔

累積学部長賞・成績優秀賞

(平成23年度)

平成23年度累積学部長賞

[機械工学科]	岩元 麗之 前田 智也 松崎 紘平	豊岡 誠也 安藤 卓也	仲西 洋介 鶴崎 智也
[電気電子工学科]	大原 春樹 片山 拓郎 徳田 哲也	尾崎 匠 島木 隆行 古川 匡玄	鍵山 明典 下蘭 太 吉村 渉
[建築学科]	森満 誠也	池畑 泰志	小山賢太郎
[応用化学工学科]	池田 圭佑 高宮真梨子 平野 裕貴	小原 京子 竹下 恭平 水上 允人	瀬筒 弘毅 堂前 康介 与儀 涼太
[情報工学科]	上田 知幸 崎元 健公	川上 雄大 待井 寛史	坂口 裕一 女鹿野大志
[生体工学科]	木地山真実	浜崎 賢太	

平成23年度累積成績優秀賞

[機械工学科]	岩永 東祐 川田 敬介 立小野 健 村松 善隆	奥 航太 金城 七海 谷口 成幸 矢野 喬寛	鬼塚遼太郎 草野 祥平 二町 健太 山崎 雅史
[電気電子工学科]	奥 雅千子 古川 諒宏	古賀 慎一 松波 信広	樋渡 裕紀
[建築学科]	池崎 晴菜 堤 章 松尾 圭介	大鳥香菜子 中島 結 山本 尚史	古賀菜津美 古達 知佳 湯ノ口哲平
[応用化学工学科]	桑木 貴之 田尻 梨絵 フヨガパトリック	後藤 成吾 針原 誠 正入木未来	竹ノ内義隆 松迫 俊也
[海洋土木工学科]	宇都航志郎 坂井 良輔 久保波留花	小田 裕貴 田村 準樹	川村 宗範 藤田 薫
[情報工学科]	尾脇 拓朗 鈴木 一也 松藤 淳哉	楮山 翔平 長友 希巳 山下 剛太	釘田 洋平 松下 侑輝 吉村 治将
[生体工学科]	金近 文彬 永田野々香 濱 美紗希 松波 孝太	久保 綾太 西村 彩 林 健太郎	再東 勇亮 能勢 愛香 本田 寿成



岸園賞

岸園賞は、平成21年4月故岸園司前同窓会会長からの寄付により、平成23年に創設された賞です。次の選考基準により各部会で推薦された同窓会会員を対象に拡大幹事会で審議し投票により決定した会員に与えられるものです。

岸園賞の対象者は、鹿児島大学（以下「本学」という。）に在学し、次の各号の一に該当する学部学生、大学院生、同窓会会員とする。

- 1) 鹿児島大学工学部の名を高めた者
- 2) 工学部同窓会活動に尽力した者
- 3) その他前2号と同等以上の表彰に値する行為等があったと認められる者

平成24年度受賞者

有馬 純治 氏（電気S41卒、平成23年9月逝去）前錦水会会長
錦水会会則の改正と組織の活性化に取り組む。鹿大寮歌CD作成委員会委員長、鹿児島大学OBゴルフ実行委員会工学部委員を務めるなど、錦水会、工学部同窓会、同窓会連合会に対し献身的な活動を行いその発展に寄与した功績が認められた。

平成25年3月卒業及び修了生進路

機械工学科

株MJC
 株MTG
 大分キャンノン株
 株カワタ
 関西熱化学株
 株九電工
 極東開発工業株
 株サザンクロスシステムズ
 JA全農
 シチズン時計鹿児島株
 昭和鉄工株
 新関西製鐵株
 スズキ株
 住友金属プラント株
 株ダイフク
 太平電業株
 東海興業株
 東京計装株(2名)
 東郷メディキット株
 株東芝
 株トヨタ車体研究所(2名)
 株トヨタプロダクションエンジニアリング
 日本アグファ・ゲバルト株
 日本電産株
 株日阪製作所
 株富士通鹿児島インフォネット
 本田技研工業株
 三菱重工業株
 三菱電機ビルテクノサービス株(2名)
 八代市役所
 YKK AP株
 岡山大学大学院
 鹿児島大学大学院(46名)
 九州大学大学院(2名)
 兵庫教育大学大学院

機械工学専攻

株IHI回転機械
 アイシン精機株
 株飯塚製作所
 いすゞ自動車株
 宇部興産機械株
 王子製紙株
 鹿児島市役所(2名)
 川崎重工業株
 京セラドキュメントソリューションズ株
 極東開発工業株
 株クボタ
 株小松製作所
 株ジェイテクト
 スズキ株
 ゼオライト株
 第一精工株
 株大気社
 ダイキン工業株
 大日本スクリーン製造株(2名)
 株ダイフク
 株中央エンジニアリング
 株長府製作所
 TCM株
 東京エレクトロン九州株
 トヨタ自動車九州株
 株トヨタ車体研究所
 株日テレ・テクニカル・リソーシズ
 日本国土開発株
 日本特殊陶業株
 日本発条株(2名)
 株日阪製作所
 菱栄エンジニアリング株
 富士重工業株
 富士電機株(4名)
 株牧野フライス製作所
 三菱重工業株
 三菱電機株
 三菱電機エンジニアリング株
 三菱電機ビルテクノサービス株(3名)

三ツ星ベルト株
 株村田製作所
 株メイテック
 株明電舎
 ヤマハ発動機株
 ヤンマー株
 横浜ゴム株
 株LIXIL
 鹿児島大学大学院(2名)

電気電子工学科

アイ・エイチ・ジェイ株
 アイコム株
 アイシンコムクルーズ株
 旭化成EICソリューションズ株
 株飯塚製作所
 いすゞ自動車株
 株A・R・P
 株NTTネオメイト
 株オービック
 株九電工
 株協和エクシオ
 株きんでん
 西部電気工業株
 ダイハツ工業株
 太平電業株
 デンソーテクノ株
 東芝テック株
 西日本高速道路株
 富士紡ホールディングス株
 三菱電機ビルテクノサービス株
 株南日本情報処理センター
 株宮崎情報処理センター
 鹿児島県庁
 宮崎市役所
 鹿児島大学大学院(43名)
 名古屋大学大学院
 兵庫教育大学大学院

電気電子工学専攻

株IHIプラントエンジニアリング
株アイネス
アイホン株
旭化成テクノシステム株
アズビル株
SMC株
株NTTファシリティーズ
王子製紙株
関西電力株
九州電力株(6名)
京セラ株
株神戸製鋼所
JX日鉱日石石油基地株
JFE条鋼株
スズキ株
住友重機械工業株
中部電力株
株デンソー
東京エレクトロン九州株
株東芝(2名)
日本軽金属株
日本プロセス株
株日立システムズ
株日立製作所(2名)
株ふくれん
富士通株(2名)
富士通九州ネットワークテクノロジー株
富士電機株(3名)
本田技研工業株
マツダ株
株三井三池製作所
三菱自動車工業株
三菱電機株(2名)
ミツミ電機株(2名)
株村田製作所(2名)
株明電舎
屋久島電工株
ローム株

建築学科

庫昌土建株
新日本空調
三洋ハウス梓設計
長崎市役所
宮建築設計綜企画設計
積水ハウス高砂熱学
大興物産株
戸田建設
セキスイハイム
藤枝市役所
ダイワハウス
清水建設
武田建築事務所
東条設計
鹿児島大学大学院(21)
北海道大学大学院

建築学専攻

大林組
長谷工コーポレーション
共同設計
株JFE設計
株東畑建築事務所
設計事務所(河口佳介+K2・DESIGN)
都市環境研究所
ダイワハウス株
日立建設設計
大鉄工業株
東洋熱工業
一条工務店
株大建設
九州防衛局
長谷工コーポレーション
弓場建設

環境化学プロセス工学科

アロン電機株
長崎キャノン株
高砂熱学工業株
株白石中央研究所
株川崎技研
ワタミフードサービス株
株NTTネオメイト
鹿児島大学大学院(22名)

海洋土木工学科

始良市役所
インフラテック株
オリエンタル白石株
鹿児島県警
鹿児島県庁
鹿児島市消防署
鹿児島市役所
川田建設株
熊本県庁
五洋建設株
坂元醸造
JR九州株
JFEシビル
東亜道路工業株(2名)
株東光コンサルタンツ
東洋建設株
株トヨタ車体研
株南国殖産
株萩原技研(2名)
函館市消防署
日置市消防署
フォーサイトシステム
福岡市役所
平成建設株
宮崎県庁
山佐産業株
鹿児島大学大学院(9名)
九州大学大学院
広島大学大学院交際協力研究科

海洋土木工学専攻

指宿市役所
鹿児島市役所
株建設技術研究所
株竹中土木
中央コンサルタンツ株(2名)
株千代田コンサルタント
東洋建設株
ピーエス三菱株
吉岡建設株
鹿大大学院後期課程

情報生体システム工学科

アイティーアイ
エコ電子工業
NECソフトウェア九州
NTTデータNCB
NTTネオメイト
エーザイ
鹿児島日産自動車株式会社
ケーズ電気
コムテック株式会社
サザンクロスシステムズ(株)
シティアスコム
厨子王株式会社
セントラルソフト
タイラグループ
DNP西日本
東京コンピュータ
南国システムサービス
ピクオス株式会社
日立ソリューションズ九州
富士ゼロックスアドバンストテクノロジー
富士通アドバンテストエンジニアリング
富士通インフォネット(2名)
富士通エフ・アイ・ピー九州
株ボルテージ
南日本情報処理センター
株式会社メイテック
荅北町役場
鹿児島県庁
高専事務
長崎市消防局
鹿児島大学大学院(34名)
奈良先端科学技術大学院大学

情報生体システム工学専攻

旭化成エレクトロニクス
伊藤忠テクノソリューションズ
エキサイト株式会社
SMK
NEC情報システムズ
NTTドコモ
エー・アンド・デイ
技術商社ジェイテック
キヤノン
九州通信ネットワーク

九州電力
ケンウッド
コニカミノルタホールディングス
コレクトプラン
シティアスコム
島津製作所
清水建設
新日本検定協会
ソフト流通センター
T&D情報システム(株)
デンソーテクノ
株式会社トヨタ車体研究所
ニッセイコム
日本データスキル
日本マクドナルド
農中情報システム(2名)
ピクオス株式会社(2名)
株日立ソリューションズ(2名)
株日立ソリューションズ九州
株式会社PLUSP
朋栄
三菱電機
三菱電機情報ネットワーク
ヤフー株式会社(2名)
リコー株式会社
鹿児島県庁
博士後期課程進学(2名)

化学生命工学科

長崎県庁
日本郵政
株南日本情報処理センター
康正産業(株)
アルフレッサファーマ(株)
岡野バルブ製造(株)
株ミック
株健康家族
株興農園
丸三証券(株)
化学及血清療法研究所
フンドーキン醤油(株)
トーアエイヨー(株)
広島大学大学院
九州大学大学院
鹿児島大学大学院(23名)

化学生命・化学工学専攻

三菱化学(株)
株大阪チタニウムテクノロジーズ
太平洋セメント(株)(2名)
オルガノ(株)
化薬アクゾ(株)
京セラ(株)
株トヨタ車体研究所
日本瓦斯(株)
東ソー(株)
ヤマト電子(株)
九電産業(株)
三菱重工(株)
関西熱化学(株)
株新日本科学(4名)
株ヤギ
同仁化学研究所
有川商店(有)
パーカー興産(株)(2名)
三共理化学(株)
株AQUAPASS
太陽社電気(株)
株クラレ
尾池工業(株)
大日精化工業(株)
ニチバン(株)
デンカ生研(株)
富田薬品(株)
アイ・エム・アイ(株)
株VSN
ワクチノーバ(株)

同窓会役員名簿及び部会

(平成24年11月現在)

(平成24年4月～平成27年3月)

顧問	住吉文夫(工学部長)
会長	今村彬(電気29)
副会長	5部会会長(次頁)
庶務幹事	渕田孝康(電子63)
会計幹事	山城徹(海土55)
編集幹事	山元和哉(応化工H8)
監事	塩屋晋一(建築57)
	米倉真一(機械40)

◆機友会(機械工学科・機械工学第二学科)

田中秀穂(31) 浜崎和則(39)
米倉真一(40) 井手英夫(48)
迫義人(56) 大重俊則(60)
谷村和彦(63) 江口之浩(H1)
林良太(特別会員) 木下英二(特別会員)

◆錦水会(電気工学科・電子工学科・

電気電子工学科・情報工学科・
生体工学科(生体電子工学コース)・
情報生体システム工学科)

永野博(46) 阿南文政(48)
野崎公憲(48) 小田博昭(47)
吉留進(47) 白石巖(51)
池田浩二(51) 渕田孝康(63)
山本吉朗(62) 重井徳貴(H4)

◆AOI会(建築学科)

下山道男(55) 揚村固(48)
梅野一郎(50) 池畑成男(53)
小島孝志(57) 宮城泰児(58)
肥後潮一郎(H4) 渡島秀夫(H2)
日野真琴(H7) 當房和博(H17)

◆南窓舎密会(応用化学科・化学工学科・ 応用化学工学科・

生体工学科(生体機能材料
工学コース)・
環境化学プロセス工学科・
化学生命工学科)

鎌田薩男(34) 染川賢一(39)
下茂徹朗(46) 大竹孝明(52)
吉留俊史(60) 安藤浩毅(H2)
塩満勝(H6) 中島常憲(H6)
小幡透(H7) 有水伸一(H7)

◆しらなみ会(海洋土木開発工学科 海洋土木工学科)

武若耕司(52) 萩亮(52)
北崎義隆(53) 中野克彦(56)
山城徹(55) 三隅浩二(57)
濱田成敏(61) 春口哲也(H1)
木佐貫浄治(H2) 木村至伸(H10)

工学部同窓会事務局

窪田玲子 TEL/FAX 099-285-3494
学内TEL/FAX 8317

部会各支部役員名簿

◆機友会

会 長	高 崎 征 忠 (39)
庶務幹事	井 手 英 夫 (48)
会計幹事	林 永 太 (特別会員)
会計副幹事	徳 永 辰 也 (特別会員)
編集幹事	木 下 英 二 (特別会員)
編集副幹事	小 田 美 紀 男 (特別会員)
監 事	大 脇 研 二 (44)
監 事	吉 満 正 美 (53)
関東支部長	内 門 暉 史 (43)
中京支部長	西 齋 藤 幸 夫 (47)
関西支部長	福 岡 石 清 夫 (42)
福岡支部長	菅 谷 清 (49)

◆錦水会

会 長	葉 山 勝 年 (41)
副 会 長	永 野 博 博 (46)
副 会 長	小 田 博 昭 (47)
庶務幹事	白 石 巖 (51)
会計幹事	吉 留 進 (47)
編集幹事	池 田 浩 二 (51)
監 事	濱 田 信 之 (41)
監 事	原 口 俊 幸 (53)
学内庶務幹事	湊 田 孝 康 (63)
学内会計幹事	山 本 吉 朗 (62)
学内編集幹事	重 井 徳 貴 (H4)
関東支部長	萩 原 健 健 (41)
関西支部長	早 野 正 則 (55)
東海支部長	永 野 博 政 (46)
福岡支部長	阿 南 文 博 (48)
熊本支部長	小 田 昭 憲 (47)
宮崎支部長	野 崎 公 憲 (48)
鹿児島支部長	葉 山 勝 年 (41)

◆AOI会

会 長	武 田 敏 郎 (42)
副 会 長	四 元 俊 男 (25)
副 会 長	徳 富 久 二 (42)
顧問	前 田 隆 造 (23)
顧問	川 上 道 夫 (34)
庶務幹事	塩 屋 晋 一 (57)
会計幹事	二 宮 秀 與 (59)
編集幹事	曾 我 和 弘 (H6)
監 事	守 真 和 弘 (41)
監 事	友 清 和 貴 (48)
関東支部長	塘 直 樹 (41)
関西支部長	小 林 彦 彦 (42)
北九州支部長	四 元 俊 男 (25)
大分支部長	和 田 正 遠 (25)
宮崎支部長	田 中 睦 巳 (43)

◆南窓舎密会

会 長	染 川 賢 一 (39)
副 会 長	安 藤 浩 武 (H2)
監 事	高 橋 重 重 (39)
監 事	伊 藤 博 雅 (44)
代表幹事	下 藤 茂 留 史 (60)
庶務幹事	吉 幡 水 透 (H7)
庶務幹事	小 有 伸 一 (H7)
庶務幹事	神 野 好 孝 (H10)
会計幹事	会 大 竹 明 (52)
会計幹事	会 満 山 塩 本 勝 (H6)
編集幹事	編 集 幹 事 中 島 高 常 師 憲 (H6)
教官評議員	甲 斐 敬 美 (43)
関東支部長	東 三 宅 征 夫 (43)
東海支部長	海 子 田 実 郎 (41)
関西支部長	関 大 脇 徹 (33)
北部九州支部長	北 黒 田 真 也 (41)

◆しらなみ会

会 長	萩 亮 (52)
副 会 長	中 野 克 彦 (56)
庶務幹事	木 佐 貫 淨 治 (H2)
庶務幹事(学内)	木 村 至 伸 (H10)
会計幹事	濱 田 成 敏 (61)
会計幹事(学内)	会 三 隅 浩 二 (57)
編集幹事	編 集 幹 事 春 口 哲 也 (H1)
編集幹事(学内)	山 城 徹 (55)
監 事	監 北 崎 義 隆 (53)
関東支部長	関 東 黒 木 敬 司 (56)
関西支部長	関 西 石 田 覚 (52)
福岡支部長	福 岡 梁 木 英 寿 (54)

◆工学部同窓会大分支部

支 部 長	大 石 喬 (応化37)
副 支 部 長	副 支 部 長 福 田 公 則 (電気38)
副 支 部 長	副 支 部 長 清 田 善 之 (建築46)
幹 事 長	幹 事 長 渡 辺 高 行 (機械49)

本 部 だより

庶務幹事 瀧田 孝康

平成24年3月に開催された総会で本部役員が改選されました。同窓会本部では総会でご承認いただきました事業計画に基づき同窓会活動が円滑に進むよう努めてまいります。また、平成23年に創設された岸園賞、平成24年より開催の司会(つかさかい)などを含め同窓会活動がより活性化するように新たな取り組みも試みますのでご支援・ご協力を賜りますようお願いいたします。

以下に同窓会本部に関する評議会、総会、講演会、拡大幹事会、鹿兒島大学同窓会連合会等の概略をご報告いたします。(資料及び議事録は本部事務局に保管してあります)

工学部同窓会評議会・講演会・総会 工学部同窓会総会

平成24年3月10日(土)
(ホテルパレスイン鹿兒島)

1. 評議会

- (1) 会長(議長)あいさつ
- (2) 議事
 - 1) 一般報告
 - ・庶務報告：平成21～23年度行事、会議報告
 - ・編集報告：会報10号、名簿14号発行報告
 - ・会計報告：平成20～22年度の会計報告
 - ・監査報告：平成20～22年度の監査報告

2) 新役員の選出

(任期：平成24年4月～平成27年3月)

会 長：今村 彬
本部庶務幹事：瀧田孝康
本部編集幹事：山元和哉
本部会計幹事：山城 徹
学 内 監 事：塩屋晋一
学 外 監 事：米倉眞一

3) その他

2. 講演会

講 師：村島定行

鹿兒島大学名誉教授

演 題：デフレの中に膨大なお金が眠っている

講演要旨：日本は不景気が続く。これは公的債務1,000兆円があり日本は世界最大の借金国だからという理由で歳出削減と増税を続けてきたからである。一方で日本は世界最大の債権国で世界中にお金を貸していることも事実である。—中略—つまり「デフレを止めるために膨大なお金を使わなければならぬ。それは日本の自由になるお金である。」

3. 総会

- (1) 会長あいさつ
- (2) 議長選出
- (3) 議事
 - 1) 一般報告
 - 2) 編集報告
 - 3) 会計報告
 - 4) 監査報告
 - 5) 新役員の紹介
 - 6) その他

- 4. 写真撮影
- 5. 懇親会



機友会・錦水会・南窓舎密会



AOI会・しらなみ会

平成24年度 鹿児島大学工学部 同窓会 拡大幹事会 議事録

日 時：平成24年8月24日（金）

16:10～17:45

場 所：ジェイドガーデンパレス鹿児島
2F 大ホール

出席者：今村彬、瀧田孝康、山城徹、
山元和哉、塩屋晋一、米倉眞一、
高崎征忠、井手英夫、木下英二、
葉山勝年、山本吉朗、重井徳貴、
武田敏郎、曾我和弘、染川賢一、
下茂徹朗、吉留俊史、満塩勝、
萩亮、木村至伸、三隅浩二、
北崎義隆（敬称略） 事務員：窪田

計23名

議題 1. 会長あいさつ

・・・今村彬同窓会長より

- 今年度は司（つかさ）会の発足年となる。今回拡大幹事会后引き続き行われる第1回司（つかさ）会に元オイレスの副会長を務めた槌田春義氏が参加してくださることの報告がなされた。

議題 2. 平成23年度同窓会運営報告

1) 平成23年度行事および会議報告

- 瀧田庶務幹事より各会議・行事の説明がなされる。昨年度の拡大幹事会では第1回岸園賞の選考が行われ、3月に開催された工学部同窓会総会・懇親会にて表彰式を行った。同じく総会の日に開催された講演会では村島定行先生にご講演いただいた。3月には会報「南桜風」第11号と追録名簿が発行された。

2) 平成23年度本部会計決算報告

- 山城会計幹事より報告される。歳入、歳出の決算額の詳細が説明された。
- 岩崎基金については歳出なし。岸園氏寄付金については平成23年度から始まった岸園賞の副賞の支出があった。

3) 会計監査報告

- 学外会計監事の米倉眞一氏より会計

監査報告がなされた。

- 監事より通帳の年度の最後に赤の線を引くと照合しやすいと指摘を行った。

4) 会報11号発行報告

- 山元編集幹事より報告がなされる。
- 製本数、配布数の詳細が説明された。残りの一部は8月に開催されたオープンキャンパスにて希望者に配布した。

5) 名簿14号追録名簿発行報告

- 山元編集幹事より報告がなされる。
- 発行数内訳、発行費、部会の負担額等の詳細を説明。

議題2の1)～5)号議案についての質問事項はなし。

議題 3. 平成24年度同窓会運営計画

1) 平成24年度同窓会行事および会議報告と計画

- 瀧田庶務幹事より平成24年度の年間計画の説明がなされた。
- 今年度は同窓会行事で大きな行事は計画されていない。来春恒例の同窓会連合会総会・懇親会が行われる。

2) 平成24年度本部会計予算案

- 山城会計幹事より平成24年度の歳入・歳出の予算案が項目別に説明がなされた。
- 岩崎基金・岸園氏寄付金に関する予算案が説明された。今年度も岸園賞の副賞として10万円を計上しているほか、第1回司会の補助金として25万円計上している。

3) 会費納入状況および本部・部会への配分額

- 山城会計幹事より会費納入状況が説明された。
- 前期割当金の配分額についての説明があり金額が提示された。平成23年度の未納除籍・退学者の返金を足した額が実際の割当金として振り込む計画である。
- 配布資料P12へ個人名の記載があるので取り扱いに関して注意喚起がなされた。

- 機友会・井手庶務幹事より「本人へ

- の督促状はどうなっているのか」
- 督促状は2回送付する。1回目は本人宛。今年度より2回目は保護者宛てにし、今までと比較し効果を見る予定。その後に関しては各部会へ任せている。
 - 「博士課程の学生に関しても同窓会への案内をしているのか。」
 - 博士課程の方へも案内している。その後は部会に任せている。
 - AOI会・塩屋庶務幹事より「資料中P9歳入備考欄の「H23」は「H24」の間違えではないか。」
 - 指摘通り。訂正する。
 - 「AOI会の割当金が合わないのでは」
 - 配布資料P11の詳細を見ていただく。
- 4) 会報12号発行について
- 山元編集幹事より説明。業者は濱島印刷に決定。会報11号にハガキをつけ会報郵送不要者はその旨を知らせてもらったところ約300名からメール・ハガキにて不要の回答を得た。
 - 見積、予算が説明された。今回も広告の掲載を考えている。
 - これからの流れが説明された。
- 5) 追録名簿発行について
- 業者は小野高速印刷。各部会で12月に希望するか否かを決定してもらう。今回は9月卒業・修了生に関しても対応していきたい。
 - 掲載情報は学生に確認を取る。
 - 本部よりの負担金、部会の負担金は従来通りとする。博士課程の希望者へは補助金なしでの本人購入となる。(鹿大卒の学生は学部卒の際に配布済みのため)
 - AOI会・塩屋庶務幹事より「鹿大卒以外の博士課程の会員には同様の扱いをしては」
 - 同窓生となった方にはそのようなサポートが必要であると考えている。
 - 「機友会は名簿を出さない状況が続けるのか。」
 - 機友会・井手庶務幹事「今年度は名簿を購入する計画である。」
 - 名簿にはシリアル番号がついている

ので、誰に配布したかは分かるようになっていく。

6) 工学部同窓会学生諸活動助成金について

- 瀧田庶務幹事より例年同様、各学科に3万円の助成をすることが伝えられた。
- 昨年度の実績と今年度の状況の確認がなされた。
- 申請には各部会の庶務幹事の押印が必要。

議題3の1)～6)号議案に関する質問事項はなし。

議題4. 各部会行事報告と計画

- 機友会・井手庶務幹事、錦水会・瀧田庶務幹事、AOI会・塩屋庶務幹事、南窓舎密会・吉留庶務幹事、しらなみ会・木村庶務幹事よりそれぞれの部会の報告がなされた。
- 質問事項なし

議題5. 岸園賞 別紙資料あり

1) 「岸園氏寄付金」名称変更

- 現在の「岸園氏寄付金」を「岸園基金」へ名称の変更をする。
- 異議なく了承される。

2) 受賞者選考

- 瀧田庶務幹事より本年度の被推薦者は1名であり、規則に有効得票数の規定がないことから過半数を超えていけば可とする旨の説明がなされる。(1部会につき2票あり)今回は○か×にし、3票以上で決定とする。
- 故人を被推薦者にする事についての意見が出される。故人は被推薦者としては省くべきでは、故人にする際どこまでさかのぼっての功績で判断するか決めるべき、推薦する部会としても基準がほしいとの意見が出される。岸園賞被推薦者に故人も可とする方向性で、この件は本部幹事、庶務幹事で検討していくこととする。
- 本年度の選考の結果、錦水会より挙

がっていた有馬純治氏が岸園賞の受賞者と決定。

議題6. 司会（つかさかい）について

1) 発足について

- 発足に至る経緯の説明がなされる。同窓生以外でも可、鹿児島県の企業との連携、学科を超えた教員の連携を図る機会を設けたいとの趣旨である。会を重ねながら試行錯誤し、工学部同窓会の発展につながるような会にしていきたい。皆様の意見ももらいたい。

議題7. その他

1) 同窓会役員名簿

- 掲載している名簿を確認いただき、訂正等は事務局へ連絡してほしい。

2) 岩崎氏の胸像

- 機械工学科棟の工事に伴い現在の胸像を一時的に移動する。
- 工事後戻す場所に関しては現在とできるだけ変わらないように配置予定。

3) 名簿（生体工学科）

- 生体工学科の卒業生が現在錦水会か南窓舎密会かどちらの同窓会に所属しているのかがわかるように印をつけるか上下に分けるなど記載を次回の名簿から行う。
- 生体工学科の表記も必要。コースに分かれているのでコース名まで入れ掲載する。

以上

平成24年度会計報告

会計幹事 山城 徹（海土昭和55年卒）

平成24年度から3年間、本部会計幹事を担当させていただきます。宜しくお願ひ致します。

同窓会本部の一般会計、岩崎基金、岸園基金の収支決算報告を別表に従って報告させていただきます。

一般会計の主な収入は前年度繰越金（10,077,624円）と学部の新入生や編入生

等が入学時に納入する同窓会終身会費（2万円/人×416人=8,320,000円）です。これらの収入に名簿部会負担金、会報広告代、預貯金利子等の収入を合わせて、歳入の合計金額は18,884,038円となりました。支出は、毎年の支払いとして、通常の各部会への終身会費の支払い（3,480,000円）、本部運営関連費（1,231,304円）、鹿児島大学同窓会連合会分担金（100,000円）、本部役員出張費（220,000円）、同窓会本部部屋の借入金と工学部事務助成費（192,895円）、学生諸活動助成費（165,000円）がありました。そのほかとしては、平成24年3月に開催した同窓会総会・懇親会関連経費（778,000円）、会報11号の発行費（2,348,542円）、平成23年度学部卒業生に渡した同窓会追録名簿（14号）発行費（103,000円）、平成25年3月に鹿児島で開催予定の藩校サミット協賛金（100,000円）、慶弔費（14,840円）がありました。歳入の合計は9,829,018円でした。この結果、歳入から歳出を引いた90,555,020円を次年度へ繰り越すことになりました（別表1参照）。

岩崎基金については、今年度も支出はなく、15,728,032円を次年度へ繰り越すことになりました。岸園基金については、岸園賞受賞者2名への副賞（50,000円/人×2人）を支出し、残り990,000円を次年度へ繰り越すことになりました。

鹿児島大学同窓会連合会だより

平成24年4月7日に同窓会連合会平成24年度総会が城山観光ホテルにて開催されました。概略のみ報告いたします。

- 1 平成23年度の事業報告、収支決算、監査報告がなされた。適切に処理されている旨の報告書が会長へ提出された。
- 2 平成24年度の事業計画（案）と収支予算（案）が示された。
- 3 藩校サミット鹿児島大会へ向けての進捗状況が報告された。
- 4 その他で水産学部より学力向上に関する提言がなされた。

別表1 平成23年度一般会計収支決算
(歳入)

平成24年3月31日現在

項目	H23予算額	H23決算額	差 額	H23決算の備考
前年度繰越金	10,077,624	10,077,624		(注1)
本年度入学者納付金	9,160,000	7,600,000	-1,560,000	372名×2万 H22年度8名分
本年度外国人入学者納付金	40,000	60,000	20,000	3名×2万
本年度編入学者納付金	120,000	180,000	60,000	9名×2万
本年度博士課程入学者納付金	40,000	60,000	20,000	3名×2万
以前の入学者納付金	20,000	360,000	340,000	18名×2万
以前の編入・外国人・博士納付金	0	60,000	60,000	3名×2万
小計	9,380,000	8,320,000	-1,060,000	
名簿部会負担金等	130,000	298,600	165,300	2名購入、H22年度錦水会分含む
会報11号広告代	50,000	99,895	50,000	
總會残金	0	47,209	47,209	
預貯金利子	500	40,710	40,210	鹿銀(351円) ゆうちょ(40,359円)
合計	19,638,124	18,884,038	-754,086	

(歳出)

項目	H23予算額	H23決算額	差 額	H23決算の備考
各部会割当金				
機友会	1,030,000	680,000	-350,000	82/102 編3 外1 博2
錦水会	1,700,000	1,410,000	-290,000	142/164 編3 外1 前編3 前7
AOI会	610,000	310,000	-300,000	42/59 編1 外1 前2
南窓会密会	870,000	610,000	-260,000	68/84 編2 博1 応化3
しらなみ会	490,000	370,000	-120,000	38/49 前5
南翔会	0	20,000	20,000	0/0 前1
未納学生の退学・除籍の部会への返金	80,000	80,000	0	錦2、AOI1、南窓1、しらなみ3、南翔1
理工学研究科(理学系)への返金	0	0	0	
小計	4,780,000	3,480,000	-1,300,000	
(本部運営関連)				
会長経費	40,000	40,000	0	
庶務経費	40,000	40,000	0	
会計経費	40,000	40,000	0	
編集経費	40,000	40,000	0	
事務員給与	950,000	951,100	1,100	
通信費	50,000	32,560	-17,440	振込手数料を含む
事務費	150,000	87,644	-62,356	
小計	1,310,000	1,231,304	-78,696	
同窓会総会・懇親会費	700,000	658,000	-42,000	8/19拡大幹事会にて審議
旅費補助	120,000	120,000	0	会長、大分支部長
小計	820,000	778,000	-42,000	
会報11号発行費	2,200,000	2,348,542	148,542	製本・郵送料含む
追録名簿(14号)発行費	980,000	1,030,000	50,000	H23年度分追録代金
役員会・評議会等運営費	150,000	116,437	-33,563	
鹿児島大学同窓会連合会分担金	100,000	100,000	0	
本部役員出張旅費	500,000	220,000	-280,000	
不動産借受金	62,895	62,895	0	
工学部事務助成費	130,000	130,000	0	
学生諸活動助成費	255,000	165,000	-90,000	
小計	4,377,895	4,172,874	-205,021	
慶弔費	100,000	14,840	-85,160	有馬純治元錦水会会長
予備費	8,250,229	152,000	-8,098,229	藩校サミット協賛金・大分支部補助
小計	8,350,229	166,840	-8,183,389	
合計	19,638,124	9,829,018	-9,809,106	

平成24年度への繰越金：18,884,038円(歳入決算額) - 9,829,018円(歳出決算額) = 9,055,020円

別表2 平成23年度岩崎基金決算
(歳入)

項目	H23予算額	H23決算額
前年度繰越金	15,676,002	15,676,002
UFJ定期預金利息	0	52,000
UFJ普通預金利息	0	30
合計	15,676,002	15,728,032

(歳出)

項目	H23予算額	H23決算額
合計	0	0

差引残高15,728,032円を平成24年度へ繰り越す。

別表3 平成23年度岸園基金決算

歳入総額	10,000,000
歳出総額	100,000
差引残高	9,900,000

通帳①郵便貯金	9,900,000
郵便貯金利息	0
合計	9,900,000

* H23年度は同窓会口座へ

差引残高9,900,000円を平成24年度へ繰り越す。

工学部同窓会 司会（つかさかい）の発足について

庶務幹事 湊田 孝康

工学部同窓会では、今年から新しく「司会（つかさかい）」を発足させました。

この会は、現工学部同窓会会長の今村彬氏の発案で、前会長の故岸園司氏の遺志である「工学部と工学部同窓会の発展および地域社会への還元」を目標として、工学部の教職員はもとより卒業生や恩師、地元の企業の方々まで含めて広く交流し、その中で新しい企画や商品開発などにつなげていくことを目指しています。第1回である今回は、工学部や産学官連携機構の教員、同窓生、退官された先生など総勢42名が参加し、ジェイドガーデンパレスにて開催されました。

今村会長の挨拶の後、昨年度に第1回の表彰が行われた「岸園賞」を受賞した2名の先生を講師にお招きし、しらなみ会の武若耕司氏・続いて南窓舎密会の袖山研一氏に講演をしていただきました。乾杯に続いての懇親会では、参加した方々がテーブルの枠を超えてさまざまに懇親を深めていました。

本会は、毎年夏に開催される拡大幹事会の後のほか、不定期に開催したいと考えています。この会を通じて、故岸園司氏の希望であった工学部の発展や地域社会への貢献が実現できることを目指していきます。

つかさ 司会の発足にあたって

会長 今村 彬

工学部同窓会では昨年度より岸園賞を設け、総会において第1回岸園賞を受賞された武若耕司教授と袖山研一工業技術センター室長のお二人の表彰式を行いました。

今年度は第1回^{つかさ}司会の発会式を8月24日に理工学研究科長福井泰好教授、工学部長住吉文夫教授、元工学部長末永勝郎名誉教授、産学官推進室長中武貞文教授、元オイレス工業副会長槌田春義氏をはじめ、各学科大勢の教員、各学科同窓会長のご出席をいただき開催いたしました。

今後は縦はもとより学内全体の横の連携も密にして、研究・開発と世界に通用する主体性を持った学生を育てる為の教育向上に努め、明日へはばたく工学部を創るための一助になればと願います。



工学部同窓会学生諸活動助成金の募集について

鹿児島大学工学部同窓会では、平成9年度入学生より入学時に同窓会への入会をお願いし、在学学生も同窓会会員（以下学生会員と記す）となっています。

本同窓会では、同窓会活動の一環として、学生の諸活動を積極的に助成しています。平成24年度も下記の通り募集する予定です。

1. 実施目的：鹿児島大学工学部の学生会員の諸活動と幅広い交流の助成
 2. 助成対象：平成24年4月～平成25年3月の期間で学生会員が企画し、多数参加する催し物で、次のようなものとする。
 - 学生会員が交流する集会・レクリエーション
 - 学生会員と本学教官又は既卒の先輩方が交流する集会・レクリエーション
 - 学生会員が全国的に活躍する大会
 - その他、実施目的に添う催し物
 3. 助成金：一件あたり3万円まで
 4. 応募方法：別紙応募申し込み用紙に必要事項を記入の上、工学部同窓会本部に申し込む。
申し込み用紙は工学部同窓会事務局（窪田）にあります。
建築学科棟2階 開局日：月・水・金(10時～17時)
TEL/Fax：285-3494（内線8317）
E-mail：dousoukai@eng.Kagoshima-u.ac.jp
- 改正歴：平成18年度の拡大幹事会で、助成対象の期間を4月から翌年3月までとする。

工学部学生諸活動助成金報告（24年度）



春季 応化・生体ソフトボール大会

学 科：化学生命工学科
企 画：春季 応化・生体ソフトボール大会
活 動 日：平成24年5月19日
活動場所：教育学部グラウンド（69名）

事業報告：助成金は優勝賞品や大会運営費などに役立たせていただきました。本助成金を与えてくださり本当に感謝しております。（川畑壮大朗）



INFO COP 2012

学 科：情報生体システム工学科
企 画：INFO COP 2012
活 動 日：平成24年10月6日
活動場所：鴨池ドーム (52名)

事業報告：学部1年からマスター2年まで学科の学生の多くが参加し、大会を通して上下の関わりや繋がりを作ることができた。ケガ人もなく大会の運営も順調に行うことができた。
(河崎拓人)



環境化学プロセス・化学生命工学ソフトボール大会

学 科：環境化学プロセス工学科
企 画：環境化学プロセス・
化学生命工学ソフトボール大会
活 動 日：平成24年12月1日
活動場所：教育学部グラウンド (90名)

事業報告：寒い中ではありましたが、楽しくけがなく過ごすことができたのでよかったです。助成金も運営費と商品に使わせていただきました。ありがとうございました。(川畑壮大朗)



第43回電気電子工学科バトミントン大会

学 科：電気電子工学科
企 画：第43回電気電子工学科バトミントン大会
活 動 日：平成24年12月1日
活動場所：教育学部第2体育館 (44名)

事業報告：普段から学生同志や先生方とのコミュニケーションの場が少なくなっている中、今年も大会を開催でき、よい交流の機会となりました。助成金により参加者に負担をかけることなく開催できました。本当にありがとうございました。(鶴崎 勇)

学 科：海洋土木工学科

企 画：就職情報交換会

活 動 日：平成24年12月12日

活動場所：海洋土木棟 2F 自習室(70名)

事業報告：JR九州の人事の方にお越いただきJR九州に関するビデオを見た後、質疑応答の時間を設けた。また、企業、公務員、JR九州、大学院とブースを作り、今年就職活動を行った人と、これから就職活動に入る人とで話す場を作ることにより就職、進路に対する意識が高まり充実した時間がもてた。就職難の今、このような会を持てることは意味があると思う。(吉丸弘晃)



建築学科1年生と教員の懇親会

学 科：建築学科

企 画：建築学科1年生と教員の懇親会

活 動 日：平成24年12月4日

活動場所：教育学部食堂 エデュカ(72名)

事業報告：建築学科1年生と教員、TA、また1年生同士が懇親を深めた会になりました。1年生は先生方から建築に対する心構えや将来に向けてのアドバイス等をいただき、それをしっかりと受け止めていました。また、1年生同士がお互いを知ることができた良い機会となりました。(池崎晴菜)

訃報

謹んでご冥福をお祈りいたします



助 教 授（機械工学科）	松 下 兼 次 様	平成24年4月	ご逝去
名 誉 教 授（海洋土木工学科）	間 庭 愛 信 様	平成24年5月	ご逝去

編 集 後 記

本部編集幹事・山元和哉

平成24年度より3年間、同窓会本部の編集幹事を担当させていただきます。任期内では、会報“南桜風”の発行を平成24年度（本紙；第12号）と26年度に、同窓会名簿（15号）の発行を25年度（平成26年3月発行予定）に予定しております。現在、工学部同窓会は、平成21年度の学科改組に伴い、平成24年度より南翔会（旧生体工学科が母体）が2部会に分かれ、錦水会および南窓舎密会と一緒に同窓会活動を行っております。各部会の活動状況や近況など、今後とも情報発信として、“南桜風”の内容を充実させてまいります。また平成27年度には工学部70周年を迎えますので、会員の皆様の判明率の向上を目指して、名簿15号の情報収集・編集作業に努めてまいります。専門業者への委託によるハガキ・電話での問い合わせ、および本紙の裏表紙裏にも個人情報に関する基本方針、同窓会本部の連絡先等を記載しておりますので、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

THE NEW VALUE FRONTIER

 **KYOCERA**



発電効率を保てる太陽電池は、 意外と少ない。

太陽電池は長く使い続けるもの。
長い間変わらない発電効率が求められます。
少し意外ではありますが、
効率が下がっていく太陽電池が多いのも事実。
その中で京セラの製品は、
世界最高水準の耐久性能が立証されており
2013年、鹿児島に誕生する
日本最大級のメガソーラーに採用される
決め手にもなりました。

これからは、電力を一人ひとりが選ぶ時代。
私たちは、長年の実績と
耐久性能という名の「品質」で応えたい。

太陽電池からすべてのエネルギー製品まで
「創」「蓄」「省」エネルギーの
あるべきカタチを常に考え、提供してまいります。



この品質を
ぜひ体験したい！

日本最大級の
70MWメガソーラー
(2013年秋 完成予定)

第37回ホリプロタレントスカウトキャラバン2012 グランプリ
橋本美青 (はしもみあ)

創エネ

太陽光
発電システム



蓄エネ

リチウムイオン
蓄電システム



省エネ

ホームエネルギー
マネジメントシステム



京セラは、技術力でエネルギーを変える。



京セラ株式会社

〒612-8501 京都市伏見区竹田島別殿町6
TEL:075-604-3500 (代表)

※1 フラウンホーファー研究機構が、世界の主要13製品に対し実施した耐PID試験による。
※2 2013年1月現在、当社調べ。

総合建設業

一步先を読む、先進の街づくり



株式会社 和田組

会長 和田 正遠(建S25卒)
代表取締役社長 和田 修

大分県別府市石垣東10丁目3番40号

TEL (0977)25-1221 FAX (0977)21-3825

<http://www.wadagumi.com> E-mail:wadagumi@wadagumi.com



情熱の花咲くトコロ

お腹を満たす満足から

ココロを充たす価値へと変わった今、

新しい「人」の時代が来たことを

肌で感じます。

「モノ」をつくるのではなく

新しい価値を創造していく企業

「大光炉材」必要なのは情熱と感性

21世紀の情熱の花を、咲かせましょう。

大光炉材株式会社

本社 北九州市戸畑区牧山新町1-1

TEL.093(871)1631 FAX.093(883)2151

個人情報に関する基本方針

プライバシーポリシー

鹿児島大学工学部同窓会名簿14号は平成23年3月に発行されました。発行に先立ち、会員の皆様にはハガキ・電話による個人情報の調査を実施いたしました。これは平成17年4月に施行された個人情報保護法に則り、個人の意思を確認した上での編集作業を行う必要があるためです。本会では平成22年度より外部の名簿専門業者へ委託し、情報の収集・製作を依頼しました。その結果、異動された会員の方々の情報も得られ判明率が上昇しました。

次回の名簿15号以降においても、個人情報の調査をした上で名簿を作成し、発行したいと考えておりますので会員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

同窓会名簿の取扱いについて

新たに皆様から頂く個人情報および従来から本会で保有しております個人情報につきましては、個人情報保護法に従い下記のように取り扱います。

1 個人情報の収集・利用目的

本会では以下の情報を収集いたします。

(1) 名簿で取り扱う情報

①名前、②自宅住所、③自宅電話番号、④勤務先、⑤勤務先電話番号

2 個人情報の利用目的

収集した情報は次に掲げる目的で利用いたします。

(1) 卒業生データの作成・管理を目的とするもの

(2) 総会等運営のために必要な文書等の送付を目的とするもの

(3) 会報、名簿および各種お知らせ等の送付を目的とするもの

(4) 大学への情報提供を目的とするもの

3 委託先および第三者提供先

この文書に定める利用目的に関連して、機密保持契約を締結した委託先に会員等の個人情報を提供する場合は、適格性を十分に審査し、本会が求める個人情報保護体制を維持するように管理・監督致します。

4 安全管理措置

本会は、この文書で定める事項に適合するように収集した個人情報を安全に取り扱い、不正アクセス、紛失、改ざんまたは漏洩が生じないよう適切な措置を講じます。すでに配布された名簿はシリアルナンバーによって管理されており、第三者が利用した場合はそのシリアルナンバーより所有していた卒業生が判明しますので、取り扱い等には十分に留意してください。

5 個人情報の開示・訂正・利用の停止等の申し出先

本人が当該本人に関する個人情報の開示・訂正・追加・利用停止の請求ならびに個人情報の取り扱いに関する問い合わせを行う場合の連絡先は以下の通りです。

<名簿14号購入希望の方へ（お知らせ）>

名簿14号が100部ほど残っております。会員に限り名簿購入を承ります。なお、その際は氏名・住所の本人確認のため免許証のコピーをいただきますので、ご了承ください。

発行：鹿児島大学工学部同窓会

発行日：平成25年3月18日

〒890-0065 鹿児島市郡元一丁目21-40

TEL 099-285-3494（内線8317）

FAX 099-285-3494（内線8317）

E-mail: dousoukai@eng.kagoshima-u.ac.jp

同窓会ホームページ <http://www.eng.kagoshima-u.ac.jp/user/dousoukai>

同窓会事務局開局日：月・水・金（10時～17時）



Faculty of engineering
Kagoshima university